

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1132

「NEWSな濟生人」

がんになっても安心して
暮らせる“まちづくり”を



10

October 2023

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

濟生会の 不易流行論

181

理事長 炭谷 茂

Shigeru Sumitani

社会福祉施設の今昔

社会福祉施設の評価は、単純に
いれない。

世界の社会福祉の大きな潮流は、施設福祉から在宅福祉に移行している。確かに福祉施設の入所者にステイグマ（汚名を着せる）が伴った時代があった。施設福祉には、人権問題が発生している指摘され続けた。歴史的に知られるのは17世紀

に始まり、20世紀半ばまで続いたイギリスのワークハウスである。救済策として失業者を収容して就労させる施設であったが、生活の自由が制限され、恐怖の館といわれたこともあった。日本では戦前は特別養護老人ホームが養老院と称され、戦後に入っても続いた。養老院は身寄りのない高齢の貧困者が入所

したので、国民の中には、「嫉捨山」のような悪いイメージを抱いた人もいた。特別養護老人ホームに制度変更された後もステイグマがつきまわった。しかし、人口の高齢化や家族の変化に伴い、今では特別養護老人ホームは、高齢者福祉には欠くことのできない施設になっている。かつての負のイメージは消えつつある。

☆ ☆

乳児院は、大正12年に日本で最初に済生会芝病院によって関東大震災で孤児となった乳幼児を保護するために設立された。昭和22年に制定の児童福祉法で法定施設として定められ、戦災孤児や捨て子の保護に大きな役割を果たした。しかし、日本の復興によってこのような乳幼児は、減少していったので、必要性が薄らぎ、廃止が続いた。

その後日本社会の成熟化に伴い、保護者による虐待、保護者の精神疾患等により適切な養育を受けられない乳幼児が増加したため、乳児院の新しい役割が生じ、新設されるようにもなった。

このような動きの中で国は、

平成29年に乳児院での養育という施設中心から里親など家庭的養育に転換する方針を打ち出し、進められている。これに関して「子どもの声から始めよう」代表の川瀬信一さんの発言が、朝日新聞（9月9日付）に掲載されていた。彼は、母親から児童虐待を受け、小学校4年生の時に一時保護された後、里親家庭で暮らしたが、中学校2年生から高校卒業まで児童養護施設で過ごしたという経歴を持つ。彼は、里親での生活は苦しいものがあったという経験から「施設か里親かどちらがよいか評価することは難しい」と述べる。この分野の専門家は、施設より里親が絶対的に望ましいのだという意見だが、現実には単純ではないようだ。済生会は、約300の福祉施設を運営している。福祉施設は今では日本社会の重要なインフラとなっている。施設福祉に対する厳しい批判があるが、これを正面から受け止め、入居者の人権尊重を第一義として経営に当たり、実践で示すことで社会の信頼を高めていきたい。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。



小樽ウエルネスタウン発
誰もが自分らしく暮らせる未来を！
～生活困窮者への支援を考える～

対象者：どなたでも参加可能
定員：200名
事前受付制

開催日
2023年11/11(土)
13:00～16:30
グランドパーク小樽

入場無料 5階樹林

第12回 済生会生活困窮者問題シンポジウム

WEBページ：申込みはこちら



基調講演

「みんながみんなを支える社会を目指して」

日本財団

理事長 尾形 武寿氏



プロフィール

日本財団理事長。1944(昭和19)年生まれ。東京農業大学農学部卒業。68年社団法人日本船用機械輸出振興会に入会。74年、同ロッテルダム事務所所長に就任。80年、財団法人日本船舶振興会に入会。90年、笹川平和財団総務部長に就任。93年、財団法人日本船舶振興会総務部長に就任。97年、同会 常務理事に就任。2005年、同会 理事長に就任。11年、財団法人から公益財団法人へ移行と共に法人名を日本財団へ改称し、引き続き理事長(代表理事)を務め、現在に至る。東日本大震災では10日後に現地に入り緊急支援の指揮を執った。

シンポジウム

テーマ：ウエルネスタウン構想における「3つのWELLNESSを視点に、生活困窮者支援を考える」

身体的・精神的WELLNESS 環境的WELLNESS 社会的WELLNESS

パネリスト

- しんぐるまざーず・ふぉーらむ北海道
代表：平井 照枝 氏
「ひとり親世帯の現状と課題」～理解から共生社会へ
小樽市福祉保険部福祉総合相談室
主幹：大口 明男 氏
「小樽市における生活困窮者支援制度の現状」
- 株式会社ドリームジャパン
代表取締役 長原 和宣 氏
「貧困と犯罪(刑務所出所者の生活更生支援)」
- 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会
ソーシャルインクルージョン推進室長 清水 雅成 氏
「済生会フードバンクによる支援ネットワークの活性化」
- コーディネーター
小樽商科大学 副学長：片桐 由喜 氏

主催：北海道済生会 後援：小樽市 小樽市社会福祉協議会



10月のたよりが聞こえる

カケスとどんぐり

植物は動けない。分布域を広げて
繁栄するには種子を散布しないと
いけない。ボンとさやをはじかせて

飛んだり、風や水の力を借りたり。
動物を利用するのも妙手だ。リンゴ
やナシ、ウリ、ブドウなどは、おい

しい果肉で釣って種は
吐き出させ、時には糞
と一緒に遠くに運んで
もらう。でも、クリや
どんぐりなど果肉に当
たる部分が一番外側の
堅い鬼皮の場合、肝心
の種が食べられてしま
う。繁栄戦略として、
どうなんだろうか。

どんぐりはシイやナ
ラ、クヌギ、ブナ、カ
シなど木の実の総称だ。
種の部分が大きく栄養
価も高い。しかも一度
に大量に実をつけるので、動物たち
は大喜び。リスやネズミは食べられ
ず、冬に備えて木の穴や地面に貯食
する。

鳥も恵みにあずかり、その代表が
本州から九州にすむカケスで、特に
ナラ系が大好きだ。鳥なので歯はな
いが、枝に止まって足で実を押しえ、

くちばしで堅い鬼皮を剥く。食べな
い実は地面に浅く埋め、落ち葉をか
けて保存する。リスなどの貯食がそ
の木周辺なのに対し、カケスはく
わえて遠くまで飛んで隠してひと安
心。これで冬を越す。とは言っても
隠し場所を全部覚えていられるはず
もない。必ず食べ忘れがあつて、こ
れが翌年、芽を吹き、どんぐりの木
が広がっていく。ちなみに、木から
地面に落ちただけではほとんど発芽
しないそうだ。

森の循環に大きな役割を果たすカ
ケス、物まね上手としても知られて
いる。ウグイスの鳴き声などお手の
もの。ホー・ホケキョの完成型から
春先に若鳥が練習中のホー・ケキョ。
ケキョまで鳴きまねる。天敵のトン
ビやカラス、時には救急車や探鳥家
のカメラのシャッター音も報告され
ている。

物まねのレパートリーが多いほど
雌にもてるらしく、さながら、森の
コロケケ。いっそ「どんぐりころ
ころ」もマスターして歌ってほしい。
(Y)

表紙のことは

「物忘れ」が森をつくります

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

人はよく物忘れを憂います。「森の番人」と呼ばれ
ているカケスはどんぐりが大好きです。秋になると
どんぐり集めに大忙し。そしていろいろなお気に入り
の場所にどんぐりを蓄えます。いくつかのどんぐ

りは冬の間食べられますが、忘れられたどんぐ
りは成長を始めます。カケスの物忘れは森を作り
ます。私たちの物忘れも、もしかしたら何かの役
に立っているのかもしれない。

濟生

SAISEI

OCTOBER, 2023

C O N T E N T S

NEWSな濟生人 がんになっても安心して暮らせる“まちづくり”を
石川県がん安心生活 サポートハウス 「つどい場はなうめ」
所長 (石川) 金沢病院 副院長 龍澤泰彦さん
スタッフ (石川) 金沢病院 看護師 木村美代さん

濟生会交差点 《自立を見据えた発達支援》「できた!」を積み重ねて、子どもの自信につなげる/
《気楽に安心して受けられる健診》“苦しくない胃カメラ”推進。受診者に優しい
環境づくり/《災害対策の意識改革》避難訓練の内容を見直し「自ら命を守る」意
識を育てる/《濟生丸による宇和海合同診療》いつまでも住み慣れた場所で、安心して暮らせるように

巻頭コラム 濟生会の不易流行論 03
社会福祉施設の今昔 理事長 炭谷 茂

濟生会ウエルネスフェア 19
(北海道) 小樽市 濟生会ビレッジ

ソーシャルインクルージョン 20

報告 生活困窮者問題シンポジウム 28

この人 勇 翔 30

口福につぼん 吉井省一 32

だれでもかんたん てづくりおもちゃ 34
いまいみさ

TOPICS 36

載々、大雑報 75

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



石川県がん安心生活サポートハウス
「つどい場はなうめ」

石川県の委託を受けて金沢病院が運営する石川県がん安心生活サポートハウス「つどい場はなうめ」(金沢市)が、今年6月に開設10周年を迎えました。がんになっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、住

民同士の交流や悩み相談、ボランティア養成などの活動をしています。同ハウス所長の龍澤泰彦さんとスタッフの木村美代さんに話を聞きました。

(石川・金沢病院 済生記者 中川範彦)

利用者のニーズに合わせて
多彩なプログラムを展開

利用者は増加傾向
就労世代の割合が増えている

中川 利用者数はどのように推移していますか。

木村 最も多いときで2016年は延べ約3600人が利用しました。新型コロナウイルスの影響で大きく減りましたが、ここに来て増え始めており、22年度の利用者数は延べ約3000人。年代は60歳未満が半数以上を占めています。

中川 どのような人が利用していますか。

木村 患者さん本人の利用が最も多く、延べ約1500人ですが、ご



「はなうめ」は石川県社会福祉会館の3階で運営。21世紀美術館の目の前、兼六園にも近いという好環境



所長
〈石川〉金沢病院 副院長

龍澤泰彦さん

スタッフ
〈石川〉金沢病院 看護師

木村美代さん



龍澤氏がコーヒーを淹れ参加者にふるまう

家族や学生などさまざまな立場の人が利用しています。患者さんのがん種別で最も多いのが乳がん、子宮・卵巣がん、リンパ・血液がん、大腸がん、肺がんと続きます。早期がんより進行がんが多く、約56%

中川 「はなうめ」の活動はどのように始まったのですか。

龍澤 国が策定したがん対策推進基本計画に基づき、2008年に石川県の在宅緩和ケア支援センター事業がスタートし、当院が委託を受けて院内に設置した在宅緩和ケア支援センターが前身です。当時の石川県は在宅での看取りの割合が全国でも低く、在宅ケアの充実が課題となっていました。

中川 もともとは在宅緩和ケアを支援するための施設だったのですか。

龍澤 はい。その後、国は「がんになっても安心して暮らせる社会」を目指し、13年に同基本計画を見直しました。それを機に、石川県がん安心生活サポートハウス「つどい場はなうめ」として再スタートを切りました。

中川 このときに院内から街の中(石川県社会福祉会館)へ移転し、より地域に根差した場になったのですか。「はなうめ」という名称にはどういった由来が?

木村 加賀藩前田家の家紋が梅であることと、春の訪れを告げる梅の花にあやかって、多くの人が集まってくるようにとの願いを「はなうめ」に込めました。



「はなうめ」は金沢病院がピアサポーター(がん患者や家族の経験のあるボランティア)とともに運営するがんサロン。小石川さん(写真右)もスタッフの一人として活動している

を占めます。

中川 この10年間でがんに対する市民の意識は変わりましたか。

龍澤 がんは検査法や治療法が進み、生存率も上がってきたとはいえ、依然として死亡ランキングのトップです。がんは早期発見すれば治る病気であると、意識が少しずつ変化してきているような気もしますが、まだ「がん＝死」ととらえる人もいます。

中川 がんについての継続的な啓発活動が重要だと感じます。それにしても、「はなうめ」のプログラムは内容が多彩ですね。

木村 セルフケアや気分転換のコツ、同じような状況の仲間との交流の場など、さまざまなプログラムが現在28あります。患者さんや家族など利用者のニーズから生まれたものも少なくありません。

中川 例えばどのような?

木村 小児がん経験者とその家族のための「くるみカフェ」、看取り経験者の語りいの場である「想い出の森」、アロマセラピー

※写真撮影時のみマスクを外しています

がん経験者同士の交流の場は
利用者だけでなく
医療者にも必要



音楽療法士（中央）と一緒に歌ったり楽器を演奏して楽しむ「ミュージックタイム」

同じ境遇の人と話をすることで
感情が整理されていくことも

を楽しみながらセルフケアと自己効力感をアップする「アロマの時間」、ピアサポーター養成基礎講座などがあります。

中川 各プログラムはどのように運営されているのでしょうか。

龍澤 主な運営スタッフは私と看護師、事務員で、3人も当院の職員です。さらに、内容に合わせてソーシャルワーカー、管理栄養士、社会保険労務士、鍼灸師、ネイリストなど、さまざまな職種や特技を持った人たちが協力しています。

中川 がん経験者や遺族がピアサポーターとして重要な役割を担っていますね。龍澤 設立当初からピアサポーターとして関わっている男性の小石川均さんは、妻を胃がんで亡くして、誰もいない自宅に帰ると淋しさや苦しさ募ったとい

います。それをきっかけに、同じような境遇の人のことが気になるようになったと話してくれました。

中川 小石川さん自身、ピアサポーターとして関わることで変化はあったのでしょうか。

龍澤 小石川さんは「時間が経つても悲しみを忘れることはありませんが、新しい経験によって周りから自然に生きる力を与えてもらっているような気がします。つらかったが、いい体験だったと思える日がいつか来るのではないかと思えるようになりました」と話していました。そのときの晴れ晴れとした表情が印象的でした。

中川 この場所は縁に囲まれ心が安らぎます。



小石川さん

龍澤 設立10周年を記念して、遺族サロン「想い出の森」で利用者が座談している様子を動画配信しました。小石川さんが「朝、カーテンを開けるたびに妻と一緒にこの風景を見たことを思い出します。つらいけど、思い出は大事にしていきたい」と話すシーンがあり、ご自身ががんという女性はそれを見て涙を流しながら「つらいけど、心が温かくなりました。同じ境遇の人の話を聞くこと

ができて安心しました」と話していました。

中川 男性限定のがんサロン「男学」を始めたいきっかけは？

龍澤 「はなうめ」の開設当初から男性の参加者は少ないだろうと予想していましたが、そんなとき、小石川さんから、「家にこもっている男性たちが外に出て気兼ねなく交流ができるようなことを企画してはどうか」とアドバイスももらい、参加者も講師も男性限定の「男学」が生まれました。

中川 どのくらいの頻度で開催していますか。

龍澤 偶数月の第4金曜日の夜と、奇数月の第3火曜日の昼間に開催し、私が淹れたコーヒーを飲みながらひと時を過ごします。そば打ちも好評。「男学」は109回開催。99回目から女性講師を招くようになり、抗がん剤の副作用でダメージを受けた爪のケアを学ぶこともありま

地域でがんと共に生活する
人々を支える

中川 がん療養に有益な情報の提供や社会参加のきっかけづくりなどにも積極的に参



管理栄養士による食事指導。コロナ禍はオンラインで利用者をつなげた

「男学」恒例のそば打ち

捕食をテーマにしたプログラム。餃子の皮を使ってピザを作った

金沢北陵高校との産学連携プロジェクト

ね。

木村 患者さんに正しい情報を提供し、賢い選択をしてもらうためにいろいろなことを企画しています。例えば、サブリーメントなどがんの補完代替医療に詳しい、鳥根大学医学部附属病院の大野智教授の講演会を毎年開いています。また、ハローワーク金沢、社労士ファイナンシャルプランナー、ソーシャルワーカーと提携して就労支援も行なっています。

中川 龍澤先生

は当院で外科部長、緩和ケア病棟医長を経て、今に至っていますが、「はなうめ」での活動は診療にどのよう役に立っていますか。

龍澤 がん治療の延長に緩和ケアがあり、その先に「はなうめ」の活動があります。その全過程に関わることはがん診療に携わ

る医師として自然なことだと思っています。

中川 活動の中で、課題に感じることがありますか。

龍澤 診察室では患者さんにできるだけわかりやすく説明することを中心掛けているつもりですが、「はなうめ」で患者さんの相談を聞いていると、病気や治療について理解されていないと感じることがよくあります。さらにかみ砕いてわかりやすく説明する必要があると痛感しています。

中川 今後の展望について教えてください。

木村 県立金沢北陵高校とのコラボで福祉用具の開発が進んでいます。「はなうめ」の利用者さんの「治療の副作用で手がうまく使えず、ヨーグルトのふたが開けにくい」という声を聞いた同校が、「生活を豊かにする福祉用具開発プロジェクト」として介助器具を開発することになりました。

中川 利用者さんの声



聞き手の中川さん

「はなうめ」開設から10年、金沢病院職員だけでなくピアサポーターや学生さんなど地域の方々の想いが利用者さんに安心を与え、つながるきっかけになっています。「春

を告げる梅の花のようでありたい」はなうめに込められた願いが形になった場所だと強く感じた取材でした。

(中川 龍澤)

【きつずてらすでは、さまざまな活動プログラムが用意されている】

①「イカロスの城」を利用したプログラムの例 ②看護師が勤務し医療的ケア児も受け入れる。運動の時間に、光るパッドに皆でタッチしながら交流するプログラムを実施 ③子どもたち14人が公共交通機関で移動して蘭島海水浴場での野外活動に参加 ④身体を動かしながら、形や文字を認識し楽しめるプログラム。主に「止まる」動作を学ぶ ⑤ボールを落とさないように意識しながらジャンプ。運動の時間のプログラム ⑥普段車椅子で移動を行なう子どもが、光るパッドを使用して寝返りなどの身体の使い方を学ぶ ⑦スタッフに助けられながら、文字を見つけて取る「文字探し」。運動会のような気分を味わってもらう



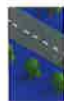
「褒める」ことが子どもの
保育士である筆者自身も、
褒めることのできる子自身の
適切な行動が増えるだけ
ではなく、その様子を見て
いた周りの子どもも「こう
すれば褒めてもらえる」と
理解して適切な行動が増え
るといふ、良い連鎖が生
まれます。

褒めることでその子自身の
適切な行動が増えるだけ
ではなく、その様子を見て
いた周りの子どもも「こう
すれば褒めてもらえる」と
理解して適切な行動が増え
るといふ、良い連鎖が生
まれます。

済生会 交差点

SAISEI・JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



では行動を否定しているだけになっ
てしま、「どうしてほ
いのか」というメッセージ
が子どもへ伝わりません。
また、問題の多い子どもに
「注意する」関わりが多く
なることは、誤学習を引き
起こす原因にもなります。

小集団の環境下で「でき
た」という経験を積み重ね
自信につながるには、その
子自身が今できること、で
きるようになったことに着
目して具体的に褒めること
が効果的です。そして本人
の状況や「やってみよう」と
いう気持ちを見逃さず、
活動での課題設定にも反映
するようにして、その子自
身の「できた！」につなげ
ます。

ウイングベイ小
樽内の全天候型
室内大型プレイ
ランド「イカロ
スの城」を利用
した活動プログラ
ム。機能充実
のアスレチック
が揃う



子どもたちと一緒に、第57回おた
る潮まつりに参加（「トピックス」
P54に掲載）

「できた！」を積み重ねて
子どもの自信につなげる

自立を見据えた 発達支援

発達支援事業所
きつずてらす
（北海道）
管理者 朽木郁代
保育士 村上 彩

当施設は心身に障害があ
る、発達に心配があるなど、
療育・支援を必要とする子
どもを対象とした多機能型
障害児通所支援事業所です。
地域の中で身近に感じても
らえる施設を目指し、小樽
市の大型商業施設「ウイン
グベイ小樽」内で2021
年に開設しました。

未就学児対象の「児童発
達支援」、就学児対象の「放
課後等デイサービス」、保
育園や幼稚園等の施設を訪
問して専門的な指導を行
なう「保育所等訪問支援」、
外出が困難な障害児の居宅
を訪問し必要な訓練を行
なう「居宅訪問型児童発達支
援」の四つの障害児通所支
援サービスを展開。作業療
法士や言語聴覚士等の専門
職による個別支援に重点を

置くと
もに、子
どもたち
が小集団
の活動の
中で個々
の力を伸
ばし、運
動や学習
生活場面
で自信を
身に付け
てもらえ
るよう支
援してい
ます。

利用者
の増加を
受けて、
昨年には二つ目の事業所として
「きつずてらすDuo（デュオ）」
をきつずてらすの隣に開設。現
在は両施設合わせて、1日に20
人の子どもを支援しています。

「褒める」が生む良い連鎖

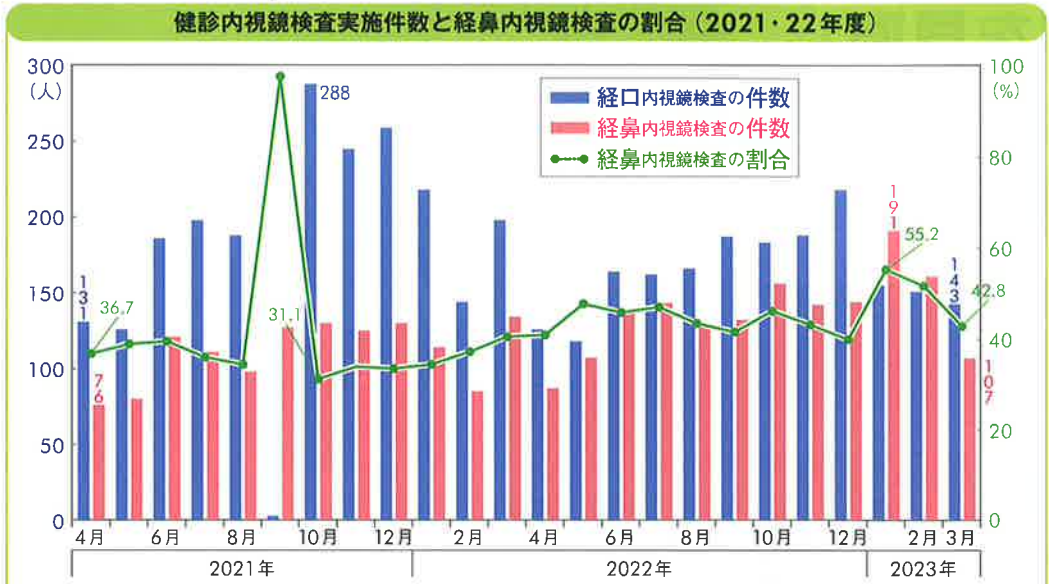
当施設に通う子どもたちは挨拶
や体操、机上活動といった
日々の活動プログラムを通して、
個々に合わせた課題に取り組ん
でいます。「自分でできること
は自分でやる」を大切に、身

の回りのことができるように
することや、人との関わり方など
を学べるように、支援していま
す。保育士は、それぞれの子ど
もの特性に合わせた活動の立案
や準備、進行を主に担当してい
ます。

子どもたちへの関わりで特に
大切にしているのは「褒める」
こと。問題行動やこちらの意図
と違うことをする子どもに対し
て、つい「ダメ」という言葉を
使って注意しがちですが、それ



発達支援事業所きつずてらすの入り口
立つ、筆者の朽木さん（左）と村上さん。
大型商業施設ウイングベイ小樽内の「済
生会ビレッジ」の一画にある



経鼻内視鏡検査の実施件数割合は2021年5月の38.8%に対して、今年1月は55.2%と経口内視鏡検査より多くなってきている

視鏡検査の実施件数が伸び悩んでいました。
健診センター内で経鼻内視鏡検査を
そうした課題を踏まえ、受

診者に優しい環境づくりの取り組みの一環として2021年6月、健診センター内に経鼻内視鏡検査ブースを新設。橋本章消化器センター長をリーダーに、臨床工学課長、内視鏡看護係長、用度課課長、健診看護係長、健診事務課長で進めていきました。

コロナ禍で受診者数・検査数が減少し続けており、「どうすれば受診者が安心して精度の高い胃検査が受けられるようになるかを、受診者の目線」で考えることを特に意識しました。

その中で、最大の懸案事項が「換気」の問題でした。現場スタッフの心配ごとは、感染のリスクが高まること。「既存の換気システムで効果はあるのか」「もし出入口を開けた場合、他の受診者に影響が出てしまうのではないか」など多くの意見が出されました。

議論は2カ月にも及びましたが、既存の外気循環機能とは別に壁付けのエアダクトを設置し、さらにスタッフ・受診者双方の感染対策に取り組むことで換気の問題をクリアしました。そして、機器の追加購入やスタッフの育成、運用シミュレーション



を繰り返し実施して、2021年11月、1日8人枠で健診センター内での経鼻内視鏡検査を開始しました。

健診センター内の内視鏡検査ブースで、経鼻内視鏡検査を行なう内科医の紅林真理絵医師。感染対策を徹底して1日8人枠で経鼻内視鏡検査を行なう

気楽に安心して受けられる健診

〈三重〉
松阪総合病院
健診センター課長
引地 学



”苦しめない胃カメラ” 推進 受診者に優しい環境づくり

当院健診センターあさひでは、胃の検査について内視鏡検査を推奨しており、年間3500件実施しています。しかし、超音波検査や胃透視検査、女性検診などほとんどの検査は健診センター内で実施できる一方、内視鏡検査は病院内の内視鏡室で行なっていました。そのため、検査の際は健診着で階段を上り下りして病院まで移動してもらったりする必要があり、また一般の患者さんに混じって検査を受けることに関して、健診受診者から不満や不安の声が多く寄せられていました。

さらに経口内視鏡検査(胃カメラ)に対しては「苦しい」「怖い」などと尻込みする人もいて、内



健診センターあさひでは「女性専用DAY」や土曜日健診の実施など「受診者に優しい環境づくり」を推進

成長に確実につながっていることを日々実感しており、明るい気持ちで関わることができています。

個々に合わせて自分で生活する力を育む

当施設では、将来子どもたちが社会に出たときに、自分で生活する力を身に付けてもらいたいと考えています。保育士としてより効果的な関わりができるように、みどりの里の専門職とともに個々の子どもが「自分の力のできる」経験を増やす

工夫について考え、日々の活動に取り入れています。

8月1日に、きつずてらす、きつずてらすDuoに続く三つ目の発達支援事業所として就労支援特化型の「きつずてらすDive(ダイブ)」がオープン。ここでは小学校高学年から中高生を対象に、商業施設内という立地を生かした「お仕事体験」プログラムなど就労を意識した支援を通して、子どもたちが社会で自立した生活ができることを目指します。

これからも「褒める」ことを



年に一度の天狗山への登山。昨年10月8日には、7歳～16歳の子もたち10人が参加

重視した関わりを大切に、子どもたちの将来につながる支援を
続けていきます。

避難訓練の内容を見直し 「自ら命を守る」意識を育てる

災害対策の意識改革

〈山形〉
はやぶさ保育園
保育士 黒田真美
齋藤里奈

年に一度、山形市の消防団が来園して園舎内の点検を行ない、ポンプ車の放水が披露される



検査の実施枠をさらに増やすことが課題

経鼻内視鏡は胃カメラに比べて圧倒的に管が細く、鼻から挿入するため嘔吐することが少ないといったメリットがあります。健診センター内で実施できること、検査への不安や苦しさ軽減されたことで、「こんな楽な検査なら次回もここでやりたい」「検診で病院内を歩かなくていいのうれしい」などの肯定的な意見を受診者から多く

いただけるようになりました。検査の実施枠をさらに増やすことが課題

当園は開園当初から毎月1回の避難訓練を行なってきました。しかし、実施計画と日時を事前に告知し、同じような時間帯や想定で行なっていたため、避難しやすいように準備をしてしまったり、職員間でも人任せになっていたり、訓練に対する緊張感が薄れ、マンネリ化が進んでいました。

このままでは、災害が起こったときから毎月1回の避難訓練を行なってきた。しかし、実施計画と日時を事前に告知し、同じような時間帯や想定で行なっていたため、避難しやすいように準備をしてしまったり、職員間でも人任せになっていたり、訓練に対する緊張感が薄れ、マンネリ化が進んでいました。



筆者の齋藤さん(左)と黒田さん

2023年1月には55・2%と経口内視鏡検査よりも多くなっています。現在、経鼻内視鏡検査は1日16件まで行なえるように実施枠を増やしましたが、健診センターでの実施は1日8件が限界のため、健診センター内で行なう人と病院内視鏡室で行なう人が混在しています。健診センター内での実施枠を増やすために

は機器の増設や医療スタッフの配置等が必要で、現在の大きな課題となっています。健診センターの目標は「病気の早期発見・早期に治療する」です。今後も受診者が気楽に安心して健診を受けてもらえるように、受診者に優しい環境づくりのための取り組みを増やし、魅力的な施設をつくりたいと思います。

まずは各クラスを担当する保育士たちで現状の訓練の課題を話し合ってもらい、出された意見を踏まえ、訓練係(筆者2人)と各クラスリーダー、園長と主任保育士で話し合う場を作りました。

ここでは、訓練内容や対応の見直しに加え、事前に実施日時や内容を告知せずに訓練を行なうことが提案されました。議論を経て、今後の訓練は各クラスの保育士や子どもたちには特に知らせずに実施することになりました。

訓練で得た「気づき」を課題改善に生かす

令和2年12月9日、告知なし

での訓練を初めて実施。午前9時から震度5弱の地震が発生したという想定です。災害時さながらの緊張感が漂う中、職員・子どもともに放送によく耳を傾け行動していました。また、職員一人ひとりの真剣な表情からは責任感も感じられました。

えてきました。それは、時間帯による活動内容の違いや、季節や気候の変化による避難場所や必要なものの違いなどを踏まえ、状況に応じた避難方法を考慮する必要があります。例えば、夏に水遊びを行なう際はサンダルやタオル、着替え類をすぐに持ち出せるように用意しておくことや、災害時に保護者のお迎えが来るまでの待機場所を確保しておくことなどが

災害時の身の守り方をわかりやすく伝える

外遊び中の不審者侵入を想定した訓練では、園庭に散らばって遊ぶ子どもたちを屋内へ移動させるのに時間がかかりすぎることが問題に。そこで、クラス担任以外のスタッフも子どもの移動を補助することとし、さらに防犯セキュリティシステムを導入。不審者を確認したスタッフが防犯ブザーを鳴らし、大きな声で周囲に呼びかけるようにしました。



夏の水遊び中に地震が発生した想定での訓練で、姿勢を低くして揺れが収まるのを待つ子どもたち。揺れが収まった後は園舎前駐車場に集まる



このように、訓練を通して得た新たな気づきや振り返りを職員間で共有し、課題への改善を重ねていくことで、避難方法や職員の役割分担など

についてマニュアルを随時アップデートしています。日頃から災害時のことを想定して活動を



地震の訓練では、姿勢を低くし頭を守る「ダンゴムシポーズ」で身を守るよう指導



火災の訓練では、防災頭巾を被り姿勢を低くして、煙を吸わないように口に手を当てるポーズをとる



①松山病院の宮岡弘明院長も参加 ②船上はコミュニケーションの場にも。研修医の皆さん ③看護師のみならず。「島での医療を経験する機会をいただいています」 ④宇和島港から1時間半ほどで日振島に到着 ⑤スタッフ皆で分担して見事な連携プレーで診療用の荷物を船内から運び出していく ⑥宇和島市の保健師（青いユニホーム）も受付業務で参加。済生丸事業は行政との連携が欠かせない

第2次診療初日は日振島と竹ヶ島の2島を巡る。早朝6時に宇和島港を出港



済生丸による
宇和海合同診療
愛媛県済生会

愛媛県済生会が、毎年5月・7月の2期に分けて行なっている「宇和海合同診療」。宇和海に浮かぶ離島の島民を対象に、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」で



水害の訓練では、園バスを利用して指定避難場所へ。大雨時の危険性を考慮し、従来の徒歩での移動からバス移動に変更

行ない、いざというときに迅速に対応できるようにしておくことが重要です。近年、自然災害の発生が多くなっており、大人に限らず子どもたちも命を守るための行動を身に付けること

が必要になってきています。毎月訓練を行なう中で特に大切にしていることは、子どもたちが慌てずに避難できるように、各災害時の身の守り方を繰り返しわかりやすく伝えることです。地震時には姿勢を低くして頭を両手で覆う守り方を「ダンゴムシポーズ」と伝え、火災時は姿勢を低くして口を手を当てることなどを理由も含めて説明。口頭で伝わりにくいことは、イラストや紙芝居を用いて視覚から

いつまでも住み慣れた場所で
安心して暮らせるように

巡回し、診療を実施しています。今年度の第2次診療は7月4～6日に実施。今治病院・西条病院・松山病院の3病院からスタッフ総勢34人が参加し、日振島、竹ヶ島、戸島、嘉島の4島で暮らす島民に診療を実施しました。初日の7月4日、日振島と竹ヶ島の2島への診療に同行し、健診の様子取材しました（メディアカル・リリーフ 坂本陽子）

「済生丸が来てくれてありがたい」「診療がなくならないと不安になると思う」と診察を待つ方々に済生丸について聞くと、みなさん口々に「おっしゃいます。毎年自治会から回ってくる案内を確認し、必ず受診している」と話す方も。「予防医学を重視し、島民が『自分の体は自分で守る』ことを支援する」という済生丸の基本方針は、継続的な診療事業を通して島民の生活の中にしっかりと根付いているようです。

島民の多くは島外にかけつけ医を持っていきますが、アクセスのしにくさから通院の機会は限られます。病気の予防に対する島民の意識は高く、済生丸により定期的な診療を島内で受けられることは、島民が安心して島で暮らし続けるために重要です。



①公民館では整形外科診療、小児科診療、心電図検査、栄養指導などを実施 ②小児科診療の実施は4年ぶり。未就学児が対象 ③公民館内の畳敷きの集会室に心電図検査ブースを設営 ④声を掛け合い、受診に来る島民のみならず。「済生丸の診療がなくなると不安になると思う」

受診を終えた方から「また来てください」と声を掛けられ、長年の活動で培われた信頼関係の強さを感じました。



3病院から多職種が参加

第2次診療の診療団は、内科・小児科・整形外科・眼科の医師（研修医含む）、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、管理栄養士、事務員で構成。担当する科や職種の人数を3病院で割り振り、基本的にベテラン職員と新人を組み合わせるようになっていきます。今回の参加が初めての人、入

「自分の体は自分で守る」意識を高める済生丸事業

日振島では診療開始時間の前から島民の方々が集まってきており、済生丸診療への関心の高さがうかがえました。松山病院の宮岡弘明院長は「より多くの職員に合同診療を経験してほしいし、現場を訪れるからこそわかることもある」と話しました。



不審者の存在をいち早く周囲に伝えるため導入された、防犯ブザーと通報ボタン。外遊時などに職員が身に付けて使用する

今後も訓練実施を通して、より安全に避難できる方法を日々追求していきたいと考えています。

小樽で済生会ウェルネスフェア



スペシャルデイには3500人が来場

7月31日～8月6日、「済生会ウェルネスフェア」を昨年に引き続き（北海道）小樽市の大型商業施設・ウイングベイ小樽にある「済生会ビレッジ」で開催しました。

テーマは「あたらしい健康のかたちを学ぼう！～コミュニティ×ウェルネス×デジタル～」。

8月5日はスペシャルデイとして、地域のみなさんに健康をより身近に感じていただけるよう、さまざまなイベントを行いました。

昨年はコロナ禍もあり、企業の出店がメインでしたが、今年は晴れて小樽病院を中心としたたくさんブースを出すことができました。

内視鏡シミュレーターを使ってお菓子をつかむ体験や、子ども向けの白衣・ナース姿のコスプレ撮影会など盛りだくさん。ステージ上では小樽病院・和田卓郎病院長が司会となり、整形外科の濱田修人医師が健康セミナーを実施。「ただの腰痛。つてなに？ 受診も棄出されるだけ？」と題し、患者さんの素朴な悩みを分かりやすく説明しました。

また、屋外では小樽で初めてとなる「軽トラ市」を開催。軽トラックでの野菜販売やキッチンカーが出展されました。さらに、済生会スタッフによる夫婦デュオ「Yue Cafe」のアカコースティックライブも行ない、会場を盛り上げました。

参加したみなさんは終始笑顔で、健康測定の結果に一喜一憂したり、介護体操と一緒に体を動かしたりと、コロナ禍で本来あるべきコミュニティの形ができなかつた数年のストレスを一気に発散させていました。

（北海道済生会 ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成）

さまざまな
イベントで学ぶ
あたらしい
健康のかたち

地域医療を考える 研修・教育の場として

今回の第2次合同診療には、全国の済生会から4人の研修医が参加しました。

〈富山〉高岡病院の高柳幹さんは島しょ医療を学ぶために2カ月間、松山病院に「済生丸があるから済生会に入職しました」と意欲的に取り組んでいます。

松山病院の村上英広副院長は、この合同診療が研修・教育の場として有意義であると話します。

「特に5月の第1次合同診療は受診者が多く、研修医1人当た



① 済生丸の船内では眼科診療とレントゲン撮影（宇和島市委託の結核・肺がん検診）を実施 ② 「島外にかかりつけ医がいる方も多いため、薬の重複がないかをチェックするのも大切な仕事」（松山病院・大政輝平薬剤師） ③ 松山病院の村上英広副院長は35年前の学生時代に初めて済生丸に乗り、愛媛県地域医療に関わっている

り30人ほど診察することになるので鍛えられます。喜んでくれる島民との触れ合いも、頼りにされるという経験になります」

心電図検査を担当した松山病院研修医の乙井天希さんは、学生時の臨床実習で合同診療に参加した経験を持ちますが、今回は医師としての参加。「受診者が多く、見落とさないようにしないといけない」と気を引き締めていました。

こうした経験は、市中の病院での医療と離島での医療の違いを感じ、地域医療について考えることにもつながり、人材育成の貴重な機会となっている。

高齢化・人口減少踏まえ 事業継続が課題

近年、都心部よりもさらに進行した少子高齢化の流れを受けて、宇和島各島の人口は減少の一途をたどっています。そうした環境の変化もあり、受診者数は減少傾向にありま



① 日振島から1時間弱で竹ヶ島に到着。健診受診予定者は10人ほどで、島内は時が止まったかのような静けさ ② 診療会場として閉校した竹ヶ島小学校を利用

す。

地域ニーズや行政側の要望に沿って診療内容は毎回調整していますが、活動の維持に必要な費用の確保も踏まえ、今後どのように事業を継続していくかは済生丸の巡回診療事業全体の大きな検討課題となっています。

一つの方向性として、済生丸の診療事業の実施方法の効率化・福祉分野と連携したサービスをはじめ、地域医療を学ぶ研修の場の提供や、災害時の救急物資・診療班の輸送など、済生丸の役割を強化・多様化していくことが挙げられます。

災害救援活動としては、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災での例があります。陸路が遮

断された中、厚生省（現・厚生労働省）の要請により済生丸は救急物資と診療班を乗せて発災2日後の1月19日早朝に神戸新港に入港。陸路が開通するまで岡山・神戸間を運航し続け、その後は宿泊所として神戸新港に停泊し、現地の診療活動を支援しました。

財政面などクリアするべき問題は多いですが、巡回診療により離島の人々の健康を守る済生丸の活動は、誰一人取り残さないというソーシャルインクルージョンの理念につながるものです。現場に携わるスタッフのみならず、今後事業を続けていきたいという強い思いを感じました。



済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1696事業を展開します。

オンラインで第2回会議 済生会らしい地域包括ケアを目指して



8月29日、済生会地域包括ケア連携士の2回目の会議をオンラインで開催、会長の荻津守宇都宮乳児院院長のほかプロ

済生会地域包括ケア連携士会

ク長5人と本部社会福祉・地域包括ケア課2人が出席しました。会議では今後の活動スケジュールを確認し、入会方法や今年度実施予定のアンケート調査、フォローアップ研修について議論しました。荻津会長は「済生会らしい地域包括ケアを展開していくためには何が必要か、本部とともに現場の意見も反映させながら、各連携士の地域での活動を支援できる会を目指していきたい」と話しました。

当会は、済生会の理念や特徴を生かした地域包括ケアを推進するため、連携士同士の情報交換や自律的な活動を通じて、法人理念の実現に寄与することを目的

5年度 医工連携フォーラム in 飯塚



福岡 飯塚嘉穂病院

として6月に発足。現在は会長と6人のブロック長で組織し、これから会員を募り本格稼働する予定です。

(本部社会福祉・地域包括ケア課長心得 鈴木孝尚)

医工連携フォーラムで登壇。 地域の3病院で意見交換

8月31日、「医工連携フォーラム in 飯塚」をYouTubeでのLIVE配信方式で開催し、82人が参加しました。

当院は2015年にイノベーション推進グループを立ち上げ、行政や近隣の飯塚病院、九州工業大学などと医工学連携に取り組んできました。

山形 済生病院

いきいき100歳体操を再開 健康維持と孤立防止に



松崎センター長は「今後は健康増進のための講義や、日常の健康管理についての指導等も実施できるように企画したい」と意欲的に話しました。
(済生記者 平川幸子)

令和元年2月を最後に中止していた「いきいき100歳体操」を、コロナの5類感染症移行を機に7月5日から再開。この活動を再開したのは、地域住民に機材や場所を提供し、体操に参加してもらったことで参加者の健康維持と孤立を防ぐことを目的としていました。また、当院MSWが参加し、地域課題の解決支援や医療福祉相談会の開催も同時に行なっています。

4年5カ月ぶりの再開ということもあり、参加者から「また始まってよかった」「久しぶりに皆と会えてうれしい」といった喜びの声が聞かれました。今後週1回開催する予定です。
(医療福祉相談室 MSW 伊藤響季)

更生保護施設「虹」へ訪問健診



長崎病院

当日は衛藤正雄院長、松崎優美地域医療連携センター長、中尾優香MSW、川原美香看護師、高尾寛看護師、医事課・東保研紀課員、福祉センター職員2人の計8人で訪問し、入所者13人の健康診断を実施。訪問健診の結果は、社会復帰や施設入所の



災害用の備蓄食料品をフードバンクに寄贈

東神奈川リハビリテーション病院

切り替え時期を迎えた災害用備蓄食料品の一部を、9月1日、フードバンクかながわに寄贈しました。新型コロナウイルス感染症が流行している時期には、さまざまな企業からご支援をいただいたこともありました。何か地域貢献ができないかを相談室、栄養科、医事課、総務課の多職種で検討して決めました。



白粥150個、鮭粥100個、いわし煮付け100個、ハンバーグ煮込み100個、野菜シチュー90個、野菜ジュース360本。
コロナ5類移行後は寄贈も少なくなってきたようで、フードバンクからとても感謝されました。
(医事課長 濱崎啓師)

イオン今治新都市で お仕事体験会と健康相談会



〈愛媛〉今治病院

今治医療・福祉センターは8月26日、イオンモール今治新都市で病院お仕事体験会と健康相談会を開催。計203人が来場し、好評を博しました。

病院お仕事体験会は小学生以上の子どもと保護者、病院の専門職に興味のある学生が対象。聴診器の体験や検査機器による

臨床検査、実技体験、ふりかけを使った薬剤分包装験など盛りだくさんの内容でした。リハビリ体験では、片肘・片膝を動かしにくくして車椅子に乗るなど、高齢者の状態を疑似体験。参加者は思うように操作できず苦戦しているようでした。診療放射線技師がCTとMRIの違いや放射線治療について説明するコーナーでは、子どもたちよりも保護者が興味津々で聞いている姿もありました。

同時開催の健康相談会では、貧血・動脈硬化・骨密度の検査を実施。「最初は相談するか迷ったけど相談してよかった」との感想がありました。

（庶務課 清水晴佳）



塚病院、飯塚市立病院、当院がパネリストとなり、当院からは三石敬之副院長、高嶋基樹主任

理学療法士が登壇し、病院間で活発な意見交換を行いました。地域の三つの基幹病院が連携

イオン熊本で「わくわくおしごとたいけん」



9月16、18日、イオンモール熊本で開催された「わくわくおしごとたいけん」あこがれのお

仕事を体験できるわくわくの3日間」に出展しました。対象年齢は3歳から小学6年



して企業と一緒に取り組むことは全国的にも珍しく、現場のニーズから医療に役立つデバイス

の開発や地域の活性化につなげていければと思います。（清生記者 松岡亜希）

熊本病院

生まで、子どもたちが楽しみながら医療に触られるイベントを企画しました。

当院が出展したのは、「なりきりナース・ドクター写真をとろ

うー」内視鏡スneaを利用したお菓子・おもちゃつかみ「チャレンジ」ロボット手術体験「腹腔鏡手術」の三つ。3日間、約900人の子どもたち

が参加しました。スタッフからは「地域とつながる貴重な機会となった」「普段交流のない他部署・他職種とコミュニケーションを図ること

ができた」「子どもたちの笑顔に癒やされた」などの声が多く寄せられました。（企画広報室 金子美雪）

学用品ドライブで 被災地支援

4病院合同で学用品ドライブ 被災した学童保育所等を支援

〔二日市〕

7月の九州北部での記録的な豪雨により久留米市田主丸や朝

倉市、添田町、東峰村などで河川の氾濫や土砂崩れなどが発生。広範囲にわたって被災しました。

そこで、飯塚嘉穂病院からの声掛けで大牟田病院、二日市病院、日田病院の4病院で被災した子どもたちや学童保育施設などへの支援として、学用品などの寄付を集め、届ける学用品ドライブを実施しました。

二日市病院では8月7、18日の約2週間、寄付箱を1階外来と3階事務所に設置。院長や事務部長をはじめ多くの職員や患者さんなど40人以上から鉛筆や絵本、ぬいぐるみ、お絵かき帳、おもちゃなど120点を超える寄付をいただきました。

これらの物品は、一般財団法人ちくご川コミュニティ財団を

〔福岡〕飯塚嘉穂病院／二日市病院／大牟田病院

〔大分〕日田病院

通じて被災地域に届けられました。

（経営戦略課 久富大史）

〔飯塚嘉穂〕

7月の九州北部豪雨で被災した久留米市大橋地区の学童保育所や、児童へのボランティア団体に対し、飯塚嘉穂病院・大牟田病院・二日市病院・日田病院の各病院で学用品ドライブを実施。8月17日、一般財団法人ちくご川コミュニティ財団を通じて寄付しました。

被災した学童保育所などで必要な物資がなく困っている実情を知った当院の地域包括ケア連携スタッフが、筑後川近隣の三つの済生会病院に呼びかけ、4病院合同で実施しました。

特に必要としているという絵本、シャボン玉、なわとび、絵の具、鉛筆、クレヨン、らがき帳、アルコール除菌シ



〈栃木〉宇都宮病院・宇都宮乳児院

シニアズチアダンスチームから つなサポ事業に寄付金



9月13日、宇都宮市つなサポ事業に、宇都宮市つなサポ事業に、市内のシニアズチアダンスチーム「SHINY☆SMILE（シャイニースマイル）」から寄付金をいただきました。

不安や困難を抱えている女性を支援し、一人でも多くの女性を笑顔にするため活動しているつなサポ事業の趣旨に賛同していただき、寄付のお申し出をいただきました。

贈呈式ではシャイニースマイル代表の大橋尚子さんから目録が手渡されました。野間重孝院長は「今回いただいた寄付は有効活用させていただきます。職員一人ひとりが使命感を持ち、全力でつなサポ事業に取り組みたいです」と感謝の言葉を述べました。

（地域連携課 秋山綾香）



9月15日、宇都宮市つなサポ事業の一環で「女性のための出張相談会」を河内地区市民センターで開催しました。

相談内容は「夫が働かなくて困る」「働きたいけど職が見つからない」「物価が上がって生活が苦しい」などさまざま。当日は同時開催に市の3歳児健診が行なわれ、子育て真っ最中の人など54人の多岐にわたる悩みが相談された。河内地区市民センターに当院の稲見一美地域連携課長以下MSW4人が対応しました。

今回は生理用品のほか、再販売が難しくなった化粧品を企業から募り経済的困難を抱える女性に無料配布するというコスメバンクの活動に賛同し、化粧品が詰め合わせギフトも配布。来場者に多くの笑顔をお届けできました。

（地域連携課 秋山綾香）

つなサポで女性のための出張相談会



9月15日、宇都宮市つなサポ事業の一環で「女性のための出張相談会」を河内地区市民センターで開催しました。

相談内容は「夫が働かなくて困る」「働きたいけど職が見つからない」「物価が上がって生活が苦しい」などさまざま。当日は同時開催に市の3歳児健診が行なわれ、子育て真っ最中の人など54人の多岐にわたる悩みが相談された。河内地区市民センターに当院の稲見一美地域連携課長以下MSW4人が対応しました。

今回は生理用品のほか、再販売が難しくなった化粧品を企業から募り経済的困難を抱える女性に無料配布するというコスメバンクの活動に賛同し、化粧品が詰め合わせギフトも配布。来場者に多くの笑顔をお届けできました。

（地域連携課 秋山綾香）

ソーシャルファーム事業を開始



北海道済生会

ソーシャルインクルージョンの実現に向け、北海道済生会は福祉ファームを立ち上げ、そこで収穫された野菜や果物を加工・販売するソーシャルファーム事業を始めました。

本事業では、障害者や刑余者、シングルマザーなどに「就労の場」を提供します。事業運営費

理事が来道し、老健はまなすで整備を進めるブルーベリー畑や、済生会ビレッジで運営する発達支援事業所さきつずてらすを視察しました。

ソーシャルファームを完成することで、福祉の



8月30日には本部から松原了

薬物依存症者へ無料健診事業



9月5・19日の2日間にわたり、NPO法人「栃木DARC（ダルク）」に入所中の生活困窮者を対象に、今年度2回目の無料健診事業を実施しました。

ダルクは、薬物依存症者とその家族に対して回復支援事業を、地域の人々に向けては薬物依存症に関する普及啓発事業を行なっています。県内にはダルクの施設が54カ所あり、2日間で計29人が来院し、当院内科医が診

察を行ないました。

受診者の男性は「健診を受けることで自分の身体の状態を確認でき、大変ありがたい。コロナ5類移行後から施設内のイベントも徐々に復活し、精神的な安定にもつながっている。一方で感染予防の意識が薄らいでもあり、クラスターに注意しながら施設での生活を送りたい」と話していました。

（地域連携課 秋山綾香）

3点、日田病院約100点、二日市病院ダンボール3箱分の物資が集まりました。

（地域医療連携室 濱崎妃沙子）

分野はもちろん、地域の活性化にも寄与できると考えています。

（ソーシャルインクルージョン 推進室長 清水雅成）

親子病院探検ツアー クイズや体験を通して学ぶ

〈神奈川〉湘南平塚病院



8月12日、主に小学生から中学生を対象に「親子病院探検ツアー」を開催しました。ソーシャルインクルージョンの活動の一環として、地域の子どもに社会参画の機会を提供し、病院を知り医療職や健康に興味を持ってもらうことが目的です。
当日は近隣に住む11家族31人（保護者11、子ども20）が参加。3グループに分かれて放射線科、



検査科、栄養科、手術室、機能訓練（リハビリ）室を回りました。放射線科では野菜や果物をレントゲンやCTで撮影、3D加工を行ない皆興味津々。手術室では本番さながらに手術着や手袋を着用し、手術台に触れるなどの模擬体験。機能訓練室では室内に作ったコース上で車椅子・松葉杖を体験しました。
参加者からは「いろいろな体験



更生保護施設から 色鉛筆とぬりえのお礼

8月21日、当院がなでしこプランの一端で

継続して無料低額診療と就職用の健康診断を行なっている更生保護施設から、今年もお礼の色鉛筆とぬりえ50セットをいただきました。

どちらも手指の自主リハビリの有力なツールとなるため、回復期リハビリテーション病棟の入院患者さんや、老健湘南苑の利用者さんに配布しました。更生保護施設とのこうした交流は10年以上続いています。
湘南苑の利用者さんからは「絵がかわいい」「ぬりえの本、一冊もらえてうれしい」などの喜びの声がありました。

今後もなでしこプラン、ソーシャルインクルージョンの一環として、さまざまな活動を展開し、地域社会との絆を深めていきます。
(MSW 中戸川麻紀)

できて楽しかった」「屋上など普段入れない場所に入れて楽しかった」などの感想がありました。
(済生記者 川崎菜美)

あなたの写真が カレンダーに!?



【大好評のため、今年も実施します!!】
11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象

機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント! カレンダーのサイズは、済生会の「なでしこの花カレンダー」と同様です。当選者は本誌にて発表します。応募の詳細は【撮影】大きく引き延ばすので正確なピントと適切な露出に【構図】横。画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外【写真の規格】写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上【送付方法】いつも通り、原稿と写真をセットにして本部広報室・下記メールアドレス宛に送ってください【参加資格】本会支部・施設の職員場合は大容量ファイルで送ってください

koho@saiseikai.or.jp

今年もやります!!



伊勢神宮の玄関口・宇治山田駅前にあるシンポジウム会場



済生会と県職員が一緒に受付を担当



伊勢神宮の宇治橋



伊勢神宮内宮前のメインストリート「おはらい町」

伊勢市健康福祉部福祉総合支援センターよりそいの小川直紀センター長補佐は子どもから高齢者までの総合的な福祉の支援拠点での取り組み。伊勢市ひきこ



林恭子氏

ち一人ひとりが多様性について考えないといけない。そういう社会はひきこもりの人だけでなく誰もが暮らしやすい社会である」と締めくくりました。

現には私た

せる社会の実

安心して暮ら

た、「誰もが

必要性を指摘

トフォームの

ていくプラッ

ゆる人たちが

連携して支え

る人たちが

てほしい」と

言及し、あら

子どもをつな

ぐ通訳になっ

てほしい」と

うことを目標

する側に対し

て「本人に会

うことを目標

する側に対し

て「本人に会

うことを目標

する側に対し

て「本人に会

うことを目標



諸岡芳人氏

最後に諸岡芳人・三重県済生会支部長が「済生会としても今回のシンポジウムを生かして皆さんと協働して前に進みたい」と挨拶をしました。



左から竹澤尚美氏、小川直紀氏、濱口拓氏、鈴木洋子氏

える会世話人の濱口拓氏は家族を孤立させずに居場所をつくることで子どもの家庭環境を変えていく活動を紹介しました。行政等による支援の側として、

もり地域支援センターつむぎの竹澤尚美センター長は心に不安を抱える人のためのフリースペースや本人の働きたいという思いにこたえる中間的就労支援取り組みを紹介しました。

林氏は支援

する側に対し

て「本人に会

うことを目標

する側に対し

て「本人に会

うことを目標

する側に対し

て「本人に会

うことを目標

する側に対し

て「本人に会

うことを目標



報告 生活困窮者問題シンポジウム

ひきこもり支援を考える 県と済生会が連携した初のシンポ

三重県済生会 常務理事 大橋範秀



炭谷茂氏

拶をし、一般社団法人ひきこもりU×X会議代表理事・林恭子氏が、「ひきこもりの真実」ひきこもる心を理解する」と題し講演しました。



一見勝之氏

新たなシンポジウムの企画に市民と県内の医療、福祉・行政・教育関係者と本会職員を含め約500人が参加しました。はじめに、一見勝之・三重県知事、炭谷茂・済生会理事長、鈴木健一・伊勢市長が開会の挨拶



鈴木健一氏

林氏は自らの不登校やひきこもりの経験をふまえて、「ひきこもりの問題の本質は、生きづらさ」であり、支援のゴールは就労や自立ではない。ひきこもりは生きるための行為で、居場所とは心理的安全が確保され人や外界に慣れる場所。支援者は当事者を社会に適応させるのではなく、対等な立場で一緒にいるための、まなざしと姿勢が大切」と訴えかけました。第二部は三重県こども・福祉部地域共生社会推進監の葛山美香氏を司会に、林氏と県内でひきこもり支援に取り組む4人のパネリストが「ひきこもりから私たちの未来を考える」をテーマに意見を交わしました。地域で活動する側として、いなべ笑かどサロン世話人の鈴木洋子氏は、当事者が互いに支えあって楽しい時間をすごしてもらおう居場所づくりの取り組み。伊勢志摩不登校ひきこもりを考

男性エンターテインメントグループ

「BOYS AND MEN」のメンバーであり、

俳優としても活躍中の勇翔さん。

今秋公開の映画では

まさに自分の人生を

なぞるような役柄を演じ、

「気持ちが入った」と言います。

主人公と重なる身の上について、

また今後の夢について聞きました。

Text: みやじまなおみ

Photos: 安友康博



勇翔 Yubi

映画の主人公の生きざまは

自分の人生そのもの！

「主人公の勇人とは違い、僕は養護施設出身ではありませんが、やはり家庭環境が複雑で母と離れ離れの時期があった。脚本を読んで勇人の気持ちが理解でき、すぐに感情移入できました」と勇翔さん。しかも、グループ誕生時のエピソードまでそっくりで驚いたという。

「映画のなかで、SOMEDAYSのメンバー5人が駐車場でダンスの練習をするシーンがありますが、実は僕らも公園でひたすら稽古をしていたんです。スタジオのように鏡もなく、メンバー同士で間違いを指摘し合っ……まるで13年前の自分たちを見ていたようでした(笑)」

勇翔さん自身、幼少時はまわりとの環境の違いを卑下したこともあったが、夢を求めて17歳で芸能界に入り、今は家族のような存在であるグループメンバーとともに目標に向かって突き進んでいる(映画ではメンバー3人も共演)。映画で伝えたいこともまた同じ。「今作が、夢を諦めずに前へと進むきっかけになれば！」と声を弾ませる。プライベートで4年前からハマっているのは車の運転。それも競技性のあるスポーツ走行を楽しんでいるという。レースに参加するため国内A級ライセンスも取得。「車好きとして、役者として叶えたい夢は、走り屋がテーマの映画に出ること。漫画『頭文字D』が昔から好きで、あんな世界観を持った作品に出演できたら最高です！」

映画「SOMEDAYS」

さまざまな事情で家族に裏切られ、養護施設で育った5人が、SOMEDAYSとして世の中に認知され、成長していく姿を描くヒューマンドラマ。昨年11月に逝去した渡辺徹氏の遺作でもある。松平勇人と姉の香は、母を探しながら社会の片隅で生活していたが、かつての仲間(良太、光、洋介)と再会し、当時の夢だった音楽活動を開始する。本当の家族のようになった5人は、行く先々で問題に直面している家族にも影響を与え始める……

■監督/撮影: 曾根剛 ■脚本: 森田剛行
■出演: 西尾まう、勇翔、辻本達規、平松賢人、本田剛文、渡辺徹、東ちづる、西村知美 ほか

10月13日(金)よりHUMAXシネマズ他全国順次公開



ゆうひ 1993年生まれ。2010年に結成の男性エンターテインメントグループ「BOYS AND MEN」のメンバー。現在、東海エリアを中心にテレビ・ラジオのレギュラーを持ち、ソロとしてもドラマ、映画、舞台で活躍。近年の主な作品に、映画『ヴァンパイア ナイト』(17年)、『パンとバスと2度目のハツコイ』『棘の中にある奇跡〜笠間の栗の木下家〜』(ともに18年)、『透子のセカイ』(20年)、TV版・劇場版『おいしい給食』(22年)、舞台『弱虫ペダル SPARE BIKE編〜Heroes〜』ほか。国内A級ライセンスを取得し、モーター情報番組「モーターゾーンTV」にもレギュラーで出演中。



©2023 Yuu Promotion 映画SOMEDAYS

口福につぼん

吉井省一

が多いと思いますが、岐阜で「栗きんとん」といえば和菓子。優美な見た目と山国ならではの栗の風味に魅了される逸品です。

今回の「栗きんとん」をつくっているのは、1996

4年創業の老舗

「恵那川上屋」。

店がある恵那市な

ど岐阜県東部では

栗きんとんは、自

然に実っている山

栗を使って地元の方がつく

ってきた郷土菓子でした。

「恵那川上屋」でもおばあちゃんたちが手

間ひまかけ

て炊き上げ

てくれた昔

ながらの味

を理想にし

ています。

もちろん、

主原料であ

る栗にはと

ことんこだ

わっています

です。一般的



済生会支部未設置県

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

未設置県の逸品

済生会は2023年度からスタートした「第3期中期事業計画」で支部未設置県の支部設立(復活)をビジョンに掲げています。

口福につぼんでは来年3月号まで、済生会支部未設置の7県の逸品を紹介しします。

岐阜県は、北の飛騨地方と南の美濃地方に大きく二分される海のない山国。飛騨地方には高山の古い町並みや白川郷の合掌造りの集落、美濃地方には山頂にそびえる岐阜城や長良川の鵜飼などがあり見どころ満載です。肝心の美味いものも、飛騨



100年先も栗菓子が愛される未来を目指して、良質な栗の生育に力を注いでいる

栗きんとん

恵那川上屋

岐阜県 恵那市

には、桃栗三年 柿八年」と言われますが、実際に苗から育てて栗が実るまでには約五年かかるそうです。

「恵那川上屋」では、美味しい栗菓子をつくるためだけでなく、「超特選恵那栗」という地元ブランド栗の名を高めるため、自社農園を持ったり、生産者の方たちと土づくりから徹底管理しながら栽培しています。そして厳しい条件をクリアした栗だけを製菓の原料に使用。

こうした経験を礎に、「100年先も栗菓子が愛される未来」を実現するため、各地の栗農家



さんたちと交流を続け、全国で「里の栗づくり」が広がっているそうです。

このこだわりの栗を鮮度のいいうちに名物の栗きんとんに。そのため、収穫期に合わせて、毎年9月から1月頃までの期間限定商品となっています。栗の品種や収穫時期に応じて、砂糖の量や炊き時間なども微妙に調



整しているほどの念の入れよう。さすが栗菓子の老舗、いただくのが楽しみになってきました。

職人の手技が生む

茶巾絞りの逸品

栗と少しの砂糖を合わせて炊き、職人の手で一個ずつ「茶巾絞り」で仕上げる栗きんとん。茶巾絞りとは、ふかして味付け



伝統の「常温便」栗きんとんに加え、今年から「冷凍便」を販売。常連さんの要望に応えたもので、「解凍すれば、風味・姿とも従来品と遜色ありません」(販売担当)という自信作



栗を使ったスイーツは和洋を問わず、お手のもの

した栗・豆・芋などを布に包み、絞りながら形づくると製法のこと。この軽くひねった跡を見ると、手作り感が実感できます。口に収めると、しっとりした口当たりで、舌触りもとてもなめらか。厳選した栗のやさしく上品な甘みと香りがふわっと広がって、「ああ、今年も秋が来たんだな」としみじみ感じさせてくれます。旨みが濃くて水分量がやや多い国産栗ならではの豊かな味わいが後を引きまします。ただし、保存料は一切使っていないので、常温での日持ちは3日間。冷凍便なら家の冷凍庫で30日保存できて、解凍後3日の日持ちがするので、お好きな時に解凍していただけます。もちろん、冷凍でも美味しさは変わりません。ために電子レンジではほんの十数秒温めてみたところ、栗の香りとホクホク感が際立って、また違った味わいを楽しめました。

栗と砂糖だけというシンプルさゆえに、栗本来の味をじっくりと堪能できます。移住先としても人気がある岐阜には、心もほっこりする秋の甘味がありました。



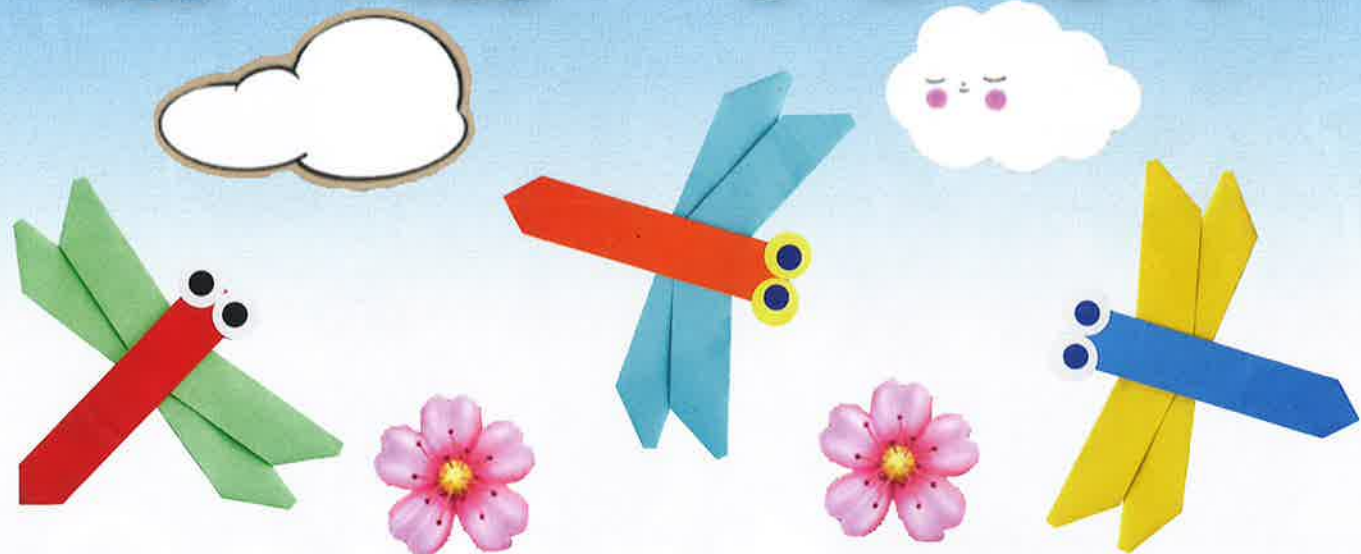
栗きんとん10個入り(常温便・冷凍便)
2,700円(税込・送料別 両便とも)
お日持ち……常温便(常温3日)
冷凍便(冷凍30日、解凍後常温3日)

お取り寄せ・お問い合わせは

恵那川上屋
〒509-7201 岐阜県恵那市大井町2632-105
TEL: 0120-26-9610 (受付時間: 9:00 ~ 17:00)
ホームページ: <https://www.enakawakamiya.co.jp>



お空を高く 飛べ飛べトンボ!



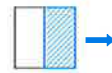
スマイル君(男の子)とラブちゃん(女の子)の作り方は、
いまいみさの新刊「1年中使える決定版おりがみ図鑑」
で紹介しています

--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

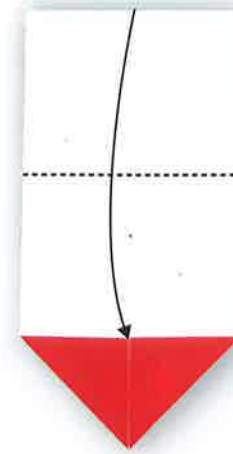


トンボ・体

1 1/2に切った
折り紙に中心
線をつけてか
ら折る



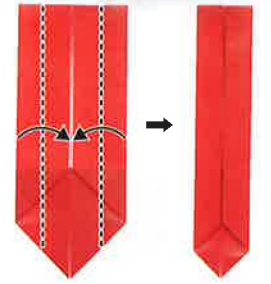
2 図のように折る



3 中心に折る

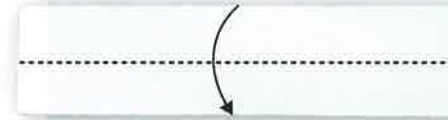


4 中心に折る



トンボ・はね

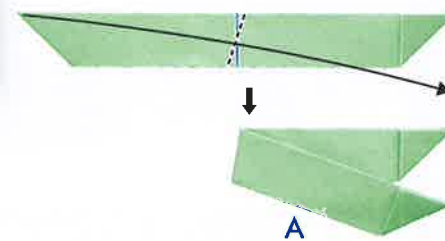
1 1/4に切った折り紙を
半分に折る



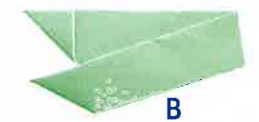
2 右は手前に左は後ろに折る



3 図のように折る

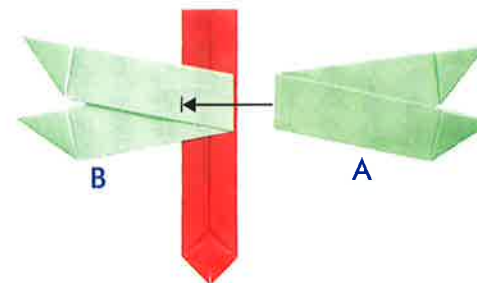


4 左右対称にもう一つ
作る



トンボ・完成

1 図のようにはねを2枚
体に貼り合わせる



2 はねの先を折って
裏返す



3 目は丸シールで
作る



色を組み合わせて、
色とりどりのトンボを
作ってね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パック
などをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著
書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のお
りがみ壁飾り」(講談社)など39冊。9月15日から新刊「1
年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)発売。



動画もcheck!

作品・折り図:いまいみさ おりがみ協力:株式会社トーヨー



東京・三田春日大社例大祭に中央病院職員が参加。お神輿を担いで町内を練り歩き、大盛り上がり。

topics



脳関連ブースでは脳卒中や認知症予防についての相談、救急ブースではAEDや胸骨圧迫体験、皮膚感染関連ブースでは紫外線対策の説明や正しい手洗い体験、がん関連ブースではメーカとの協力も得てウィッグやがん患者用下着を準備し、実際に手に触れてもらい相談を受けました。

受講者は計23人。20〜70代と



昨年度に機能評価を新規受審した施設の中から、日本人間ドック学会の新規賞を当院健診センターが受賞。9月1〜2日に開催された当学会学術大会の表

京都済生会病院 人間ドック学会新規賞

幅広く、「とても勉強になり参加してよかった」「さまざまなおしゃべりがあったのもすごくよかった」などの声がありました。
(がん相談支援センター 副看護師長 渡邊美貴)

病院の魅力もっと発信を！ 学生さんたちが改善案提言

〈鳥取〉境港総合病院

業や施設を訪問し、そこで見つけた課題に対しアイデア提案な



8月4日、高校生2人と大学生2人が、「みなとフィールドスタディ・キャンプ」の一環として当院を訪れました。市教育委員会が主催する同キャンプは、学生・生徒が市内の企業や施設を訪問し、そこで見つけた課題に対しアイデア提案な

「新人教育の充実」「診てもらえるという信頼」などを挙げ、「それらの魅力を十分に発信できていない」という課題への改善策として「SNSのさらなる活用」を提案してくれました。

（済生記者 亀尾美子）

★境港総合病院の魅力・地域での役割、現状を知ってもらえてうれしいですね。
(本部広報室 杉山菜央)

〈大阪〉野江病院

認定看護師による市民講座

当院で活躍する認定看護師（9分野11人）による市民講座を8月8日、当院4階会議室に四つの体験・相談ブースを設ける形で開催しました。



終活を自分ごとで考える

〈神奈川〉横浜市六浦地域ケアプラザ

8月29日、若草病院在宅医療室の佐藤まり子師長を講師に迎え、「在宅医療がどのように行なわれているのか、また受けるにはどうしたらよいか」について話していただきました。当ケアプラザの協議体として

（健診センター係長 瀬元健太郎）

を位置付けられている「ささえ愛のつどい」では、今年度のテーマを「毎日を安心して暮らしているように」とし、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けるための話し合いを月1回開催しています。

その中で、「いざれ迎える終末の準備」を誰もが自分ごととして考えられるようにと話し合いを重ねて企画されたのがこの講座。当日は36人もの参加があり、地域のみなさんの終活への関心の高さを実感しました。
(生活支援コーディネーター 山元友紀子)

〔群馬〕 前橋病院

開設80年、スクラブを一新

当院が前橋市に開設されて80年。これを記念して、9月からスクラブ（医療用白衣）を一新しました。



従来に比べ、ストレッチ性に優れ、吸汗・速乾性、制電性などの機能を強化。作業効率が高まり、患者さんへのサービス向上につながることを期待しています。また、役割が一目でわかるように、医師、看護師、薬剤師、医療技術者、医療福祉相談員、看護助手といった職種ごとに色分けしました。さらに新たな試みとして、看護師は「日勤」と「夜勤」で色を変えました。勤務シフトを可視化すること、よりスムーズで安全安心な医療環境づくりはもとより、引継ぎ等のコミュニケーション

の活発化や働き方改革の一助にもなると考えています。

（副管理局長 高橋宏幸）

〔埼玉〕 加須病院

認定看護師による無料相談窓口

当院では9月、新たに「認定看護師相談窓口」を1階ロビーに開設しました。

ここでは、外来患者さんやそのご家族に対し、認定看護師の分野に関連した無料相談を行なっています。例えば「がんの告知を受けて悩んでいる」「がん治療



で副作用がづらい」など、日常生活での不安や困りごとを患者さんと一緒に考え、必要な情報を提供します。

ほかにも認知症・皮膚や排泄・ムセや飲み込み・誤嚥性肺炎に関する内容など、分野ごとの認定看護師が持つ知識を生かし相談業務を行ないます。

がん性疼痛看護認定看護師の金子京子看護課長は「患者さんに寄り添い、身体面・精神面・社会面・スピリチュアルな面を総合的に判断した上で、思いやりを持って個々のケアに取り組みんでいきます」と抱負を語りました。

（済生記者 蓬田絵里子）

〔和歌山〕 特養潮光園

新築移転後の防火訓練

9月20日、湯浅・広川消防本部の協力の下、利用者さん13人も参加して、新築移転後の防火訓練を行ないました。

火元は1階リネン室で、夜間に火災と想定しました。午後1時30分に火災警報器が鳴り響くと、夜勤役の職員5人がそれぞれ防災時の役割に従って消火活動、避難誘導にと走り回りま



した。

利用者さんの参加は初めてで、若干の混乱は生じたものの、職員の手配が良かった。消防本部からは初めてにしてはまあまあ良くできました」とのお褒めの言葉をいただき、職員たちも大喜びでした。

最後に、浦崎弘之施設長から「今日は訓練でしたが、被災時はみんな慌てずしっかりと消火活動と避難誘導ができるように気持ちを引き締めて行動してほしい」との訓示がありました。

（事務責任者 山崎良彦）

科学の祭典にコロナ参加 2千人が来訪

熊本病院

8月19・20日に開催された「科学の祭典2023 熊本大会」に、熊本高等専門学校（熊大）の学生が制作する医療機器を医療面でサポートする形でコロナ参加しました。

当院での見学を踏まえ、学生たちは「体の反射・伝達が学べる機械」「遠隔手術ロボットアーム」の二つの機器を製作。前者は音や光を感じてから身体が反応するまでの時間を計測するもので、後者はアームを操作しながら体の臓器（パーツ）を人体模型の所定の位置に移動



するといふものです。

「反射神経ゲームとロボット手術の世界へようこそ」と銘打って出展したところ、2000人を超える子どもたちが体験しに来て大盛況でした。

当院でアウトリーチ活動を推進する救急科の杉山真一医師もイベントに参加。精密に動作する製作物に驚き、子どもたちが楽しそうに医療に触れる様子を見てうれしそうでした。

（済生記者 東 賢剛）

高校生ふれあい看護体験

京都済生会病院

8月3日、「高校生ふれあい看護体験」を2年ぶりに開催し、京都府内の高校1年から3年生の10人が参加しました。

病棟では担当の看護師と一緒に、見学だけでなく体温測定、血圧測定、車椅子移動や身体拭きなどの介助や新生児のお世話も体験しました。

看護師の制服を着てもらったので、居合わせた医師も見分けがつかない様子。患者さんと笑



しかった」「一人の患者さんに、看護師や医師以外にも多くの関係者が関わっていることがわかった」などの感想がありました。

（企画広報室長 松岡志穂）



CF成功！ 手術支援ロボット導入へ

〈愛媛〉今治病院

7月から8月にかけて実施していた手術支援ロボット導入を目的としたクラウドファンディングが8月31日に終了。目標金額100万円を大幅に上回る208万4千900円の寄付を、671人からいただきました。

地域がん診療連携拠点病院である当院は、高齢化を見据え、今治の地域医療に手術支援ロボットの導入することでがん治療の選択肢を増やし、医療の充実を図ろうとクラウドファンディングに挑戦しました。

インターネットを介して全国から寄付があり、院内の寄付窓口にも患者さんやご家族からたくさんのお声が集まりました。あわせて、当院への感謝や期待のお言葉、今治の地域医療充実を望む声など、多くの応援メッセージに職員一同大きなパワーと勇気をいただきました。

（済生記者 日野美華）



美空ひばりさんの映像に うっとり

神奈川県病院

病棟レクリエーション活動の一環として、9月14日、映像鑑賞会を地域包括ケア病棟で実施し、10人を超える入院患者さんが集いました。

鑑賞したのは、横浜市出身の



国民的歌手、美空ひばりさんの最後のコンサート映像。ひばりさんの圧倒的な歌声がデイルームに響きわたると、みなさん思わず聴き入り、小さく手拍子をしていました。

子どもたちは保育士と一緒に歩いて中央病院内のドトールへ。

店頭では並んでいる洋菓子の中から好きなものを選び、おもちやお金で買物体験。さらに、特別に用意してもらったデイズニーの水筒にジュースを入れてもらい、テイクアウトもしました。

施設に帰ってからも水筒を手離さず、お茶やお水も水筒から飲むほどのお気に入り。子どもたちの思い出に残る買い物体験となりました。

（理学療法士 新井保久）

給与明細をペーパーレスに

福岡 大牟田病院

当院では4月にDX推進チームが発足したことで、各部署での業務改善活動が活発化しています。

給与明細の印刷、封入・仕分けには半日から一日かかり、かねてから総務課ではペーパーレス化が懸案となっていました。そこで、専用紙の在庫が切れるタイミングに合わせて、7月に人事労務クラウドサービスを導入。ペーパーレスに踏み切りました。給与担当者からは、印刷・

する様子も見えました。

コンサート映像の背景に映し出された花火大会の映像もきれいで、入院患者さんたちの心をわしづかみにしていました。「とても懐かしいね」との声も上がり、最近までクラスターによって制限が設けられていた病棟に、ようやく明るさが戻ったように感じました。

（済生記者 小山友輝）

2年ぶりの ふれあい看護体験

山口総合病院

7月25・26日の2日間、市内の高校生30人を対象に、ふれあい看護体験を実施しました。新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの開催でしたが、看護の楽しさややりがいや伝えられるように、しっかりと準備を行いました。

当日は集中治療部や救急部を見学し、看護師の仕事について理解を深めてもらいました。参加者がユニホームに着替え、髪をシニヨンでまとめ、患者さんとコミュニケーションをとる姿はとて新鮮。自分たちが看護師を目指したころを思い、温かい気持ちになりました。

ドトールの協力で 店舗での買い物体験！

東京 中央病院附属乳児院

7月26日、当院の13人の子どもたちが中央病院内のドトールで買い物体験を行いました。ドトールとの関係づくりのきっかけは「アイスクリームの廃棄予定分を提供するので子どもたちに食べてもらいたい」というありがたい申し入れでした。昨年夏からお世話になっていましたが、今回初めて、同店での買い物体験を企画しました。当日、3グループに分かれました。

当日は、他病院15施設の専門職も含めオンラインでグループディスカッションを実施。病院ごとのがんのリハビリテーションに対する現状や問題点とその解決策、また提示された症例での模擬カンファレンスに挑みました。

身体機能だけではなく精神面、子後や家族の関わりなどの問題点を踏まえた上での目標設定に難渋する場面も。それぞれの職種の間での意見交換、そして他病院との情報共有をしながら、よりよいリハビリテーションを提供するために理解を深めました。

（理学療法士 岡本実緒）

がんリハビリテーションの 理解を深める

山口 下関総合病院

封入・仕分けの作業がなくなり、「重荷が取れた」と喜ぶ声が。職員間でも「スマホ・パソコンに給与明細のお知らせメールが届き、いつでもどこでも明細が確認できとても便利になった」との声が上がっています。

（総務課 原田拓郎）



病院による農園づくり C.F.F.で目標超す

〈北海道〉小樽病院

「済生会ウエルネスタウン構想」に取り組み当院では、地域の人々が誰でも活躍できる場をつくろうと「済生会ファーム」プロジェクトを計画。新たな農園の造成費や生産物加工を商業施設で行なうための修繕費を、クラウドファンディングで募りました。

6月12日から7月31日まで実施したところ、300人以上から目標金額（1100万円）を超える1300万円のご支

援をいただきました。スタートダッシュが切れず、目標金額到達が危ぶまれる状態が続いたのですが、締め切り間近になって取り組みへの理解が進み、最終日の4日前に目標を達成できました。

「みんなが生き生きと暮らせる小樽を再び。病院による農園づくり、はじまります」——今回のご支援をもとに、これから着実に実践したいと思います。

（済生記者 松尾寛志）



〈東京〉中央病院
関東大震災から100年
災害対応を考える機会に

9月2日、みなとパーク芝浦芝浦公園で開催された「港区・関東大震災100年継承プロジェクト」に、当院から14人が参加しました。

当院は、救急診療科の関根和彦副院長による防災シンポジウムの講演、トリアージのデモンストレーションやクイズ大会、病院救急車の展示などで参画。救急診療科の村上諒典医師ら



によるトリアージのデモンストレーションでは、傷病者を緑・

黄・赤に色分けし、実演を交えながら説明を行ないました。クイズ大会も好評で、正解者には当院特製のエマージェンシーボトルをプレゼントしました。

会場では各社企業の防災食の展示販売、消防隊員の救助訓練のほか、ポンプ車や起震車も登場。子どもから大人まで、楽しみながら災害時の対応について考える機会となりました。

（済生記者 鈴木香純）

〈静岡〉伊豆医療福祉センター

実際の場面を想定した
総合防災訓練

8月24日、約60人が参加して年に一度の総合防災訓練に取り組みました。

避難訓練に先立ち、まずは消火栓使用訓練を実施。消火器の使用手順の確認や消火栓からの放水を実際の器具を用いて体験しました。

その後、地震の発生とそれに伴う火災を想定した避難訓練を行ないました。入所・通所施設では利用者さんとともに実際に避難し、外来では外来患者さんを想定した避難誘導と点呼を実施しました。



入所・通所・外来と部門ごとに異なる機能を持つことや、利用者さんや患者さんの特性を考慮する必要がある中で、いかに実際の場面に近づけた想定を行なうか、職員同士

の連携が取れるかといった課題が見つかりました。

（済生記者 竹味由惟）

〈埼玉〉川口総合病院
カンファレンスを学ぶ

昨年度の診療報酬改定で養育支援体制加算が新設され、その要件として年2回程度職員に研修を行なうことが定められたことを踏まえ、9月11日、小児科の井上久美子医師が「多職種地域カンファレンス」をテーマに講演をしました。

地域カンファレンスは「在宅移行支援」「養育支援」「虐待対応」「その他」の4種類に分けられ、多職種・多機関が関わって行なわれています。講演ではそれぞれの事例をもとに、支援のきっかけからカンファレンスの様子、その後の経過についての解説がありました。

受講者は約43人。業務で参加できなかった職員にも、イントラネットで1カ月間、eラーニングを利用して学んでもらえるように工夫しました。

患者さんとその家族を支援し続けることの大切さや、カンファレンスが果たす役割について、



多くの職員に知ってもらいやすい機会になりました。

（医療福祉事業課 石川妃登美）

〈大分〉日田病院
対面研修ならではの共有

8月26日、全国済生会事務（部）長会社会福祉事業推進協議会の九州ブロック研修会が熊本病院で開催され、九州管内11病院25人のMSW等が参加しました。

ブロックリーダーである当院平田勝基事務部長から昨年度活動報告および今年度アクション

プランの報告があり、続いて当院医療社会事業室の桑野博文室長を講師に、無料低額診療事業における業務効率化、自身が考える無料低額診療の意義についてのグループワークを行ないました。

久しぶりの対面研修に最初は戸惑いましたが、すぐに感嘆や笑い声が響く雰囲気。参加者それぞれの葛藤や工夫について共有することができ、一気に距離が縮まりました。オンラインでは躊躇してしまうようなことも遠慮なく意見を交わらせて、本当の意味で時間を共有できたように思います。

（医療社会事業室統括室長 甲斐祐治）



〈奈良〉 老健シルバーケア まほろば

世界アルツハイマー月間

9月21日の「世界アルツハイマーデー」を中心に、9月は「世界アルツハイマー月間」として各地で認知症に対する正しい知識の啓発活動が行なわれます。当施設でも、地域包括支援センターきぼうと広報委員会の協力のもと、正面玄関前に認知症の普及啓発のシンボルカラーであるオレンジをメインに使用し、推奨本を展示しました。

来訪者の中には掲示に目をとめたり、推奨本を手にとったりする人が多く、アルツハイマーデーの周知と認知症への理解が進んだように感じました。「桜井市認知症ささえあい活動」の一員である当施設には、認知症サポーターの職員が多数在籍しています。これからも地域に根差した施設として、地域のみなさんを支えていきます。

（済生記者 林 嘉夏）

〈神奈川〉 特養わかさ

机上訓練で激論2時間

6月2日に定例（毎月第一金



曜日）の防災管理委員会を開き、津波発生時に入居者をいかに早く安全に上層階に移動できるかを机上で訓練しました。

海抜約1メートルの当施設はハザードマップで津波及び浸水地域に指定されており、準備を怠らないように努めています。

参加者は施設長・介護職・医務職・ケアマネ・事務職の6人。訓練ではホワイトボードに印刷された大版の2階平面図に、磁石シートで色別けた入居者の状態を貼り付けました。これをもとにシミュレーション。2時間に及ぶ激論を経て、20分で入居者を3階に上げるという結論を導きました。

今回は入居者さんと一緒に訓練し、実証見分を行なう予定です。

（経営管理部 清水紀明）

〈栃木〉 宇都宮病院

性暴力を考える講座

9月1日、今年度初の「性暴力を考える講座」をとちぎ男女共同参画センターパルティで開催し、医療機関や学校、公的機関等で相談業務などに携わる54人が参加しました。

当日は、稲見一美地域連携課長が「とちぎ性暴力被害者サポートセンターから見える性暴力」と題して、当院が県から受



託運営しているとちぎエールの事例紹介やワンストップセンターとしての役割等について講演。参加者からは「事例から多くを学ぶことができた」「改めて被害の理不尽さ、社会の偏見について理解できた」「相談の基本姿勢を再認識できた」といった、講座に対する多くの肯定的な意見がありました。

（地域連携課 秋山綾香）

〈山口〉 豊浦病院

そば打ちでリフレッシュ

9月6日にリフレッシュ研修を実施し、新人看護師と教育委員の計20人がそば打ちに挑戦しました。

新人看護職員の悩みを共有し、リアリティショックやストレスを軽減することが目的のこの研修。達成できる課題に取り組みことで自己成長を促そうと、そば打ち体験を企画しました。

同期と相談したり、そば打ち職人に助けを求めたり、褒め合

ったりと、体験が始まると自然にコミュニケーションがとれていました。日々の業務を離れ同期と同じ時間を過ごすことで、いきいきとした表情が見られました。

最後に自己の振り返りと今後の目標の設定を行ない、所属部

署から応援や労いのメッセージカードを贈呈。「楽しかった」「同期と過ごせ良い刺激になった」「いろいろな人に支えられていると感じた」という声が多く、とても意義のある研修になりました。

（2階西病棟看護師 白井広美）

全国CEE会 71人が初めて対面

8月26日、第4回全国済生会臨床工学士会が当院で開催され、19施設71人（Web参加32人）が参加しました。

同会は2019年に有志5人でスタート。新型コロナの影響もあり、過去3回はいずれもオンラインのみでの開催でしたが、今回は発足後初の対面形式での開催となりました。

当日は、済生会本部経営管理課の皆見龍治氏が、本部事業の一つである共同購入の統一品について講演をしました。

本会の石井秀一会長は「対面形式ということもあり活発な意見交換が行なわれました。これからも多くの施設に参加いただき、活動が全国に広がることを願っています」と語りました。

〈東京〉 中央病院

71人が初めて対面



次回は来年8月、福岡で開催する予定です。

（済生記者 鈴木香純）

〈滋賀〉 特養淡海荘

ストリートビューで施設見学

8月29日、当施設に入所して



いる利用者さんのご家族向けに、「淡海荘ストリートビュー」を開催しました。

一人称視点で施設内を歩き、施設内部の様子や利用者の表情を映像で紹介するもので、当施設を実際に訪問・見学した感覚になることができます。

当日は21人が参加。近年、コロナの影響で面会や施設内見学を延期していたため、コロナ流行時に入所した方のご家族は初めて施設の全貌を把握でき、利用者さんの笑顔も見られたと安堵していました。

ご家族から現場スタッフに感謝の言葉をかける一幕もあり、スタッフにとっても奮起を促すイベントとなりました。

（済生記者 野口景市）



リフレッシュ研修会場で

神奈川県病院
予防医療センターが
リニューアルオープン



5月に着工した予防医療センターの改修工事が終了し、9月からリニューアルした環境で受診者のみなさんをお迎えすることとなりました。

健康診断の受付、待合、更衣室、問診室を一新し、さらに健診フロアも広くなったことから、より多くの受診者の受け入れが可能になりました。

毎年受診している人からは「きれいになったね」「見違えたよ」と笑顔で声をかけていただきました。工事期間中は大きな音がしたり空調の制限があったりと、ご不便やご迷惑をおかけしました。

無事に工事が

完了したことに職員も安堵しています。今後も地域のみなさんの健康維持・増進のお役に立てるセンターとなるよう、気持ちを新たに取り組みます。

〈予防医療センター事務〉
主任 井上亜由美

〈神奈川県〉横浜市東部病院
サルビア夏祭り

併設する重症心身障害児(者)施設サルビアのプレイルームで、8月24日、夏祭りを開催しました。

当日は入所児者さん34人のほか、短期入居者さんやご家族も参加。入口には「たのしい緑日おまつり大会」ののぼりが立ち、さまざまな柄の浴衣に身を包んだ多くの参加者にぎわいました。

焼きそばの香りを味わったり、職員がその場で作る甘い綿菓子をおもちゃで飾りつけしたり、みんさん笑顔で思い思いに楽しんでいました。

祭りの終わりには、奥に置かれたやぐらと神輿の近くに集合。前方のプロジェクトに映し出された花火の映像を、皆で歓声



を上げながら鑑賞しました。夏ならではの素敵な思い出ができました。

〈済生記者 荒木愛美〉

福井県済生会病院
肝炎医療コーディネーター
養成研修会

県内唯一の肝炎患診療連携拠点病院である当院は、県から委託され「肝炎医療コーディネーター養成研修会」を毎年開催しています。

友の会代表の川上ゆきえさんからお話をいただきました。

受講者は59人。「肝炎医療コーディネーター」の役割と重要性について理解が深まった」「肝炎で苦しむ患者の声を聞いて、

基礎講義動画研修（公開期間8月18日～9月1日）では、肝臓専門医、薬剤師、臨床検査技師など専門職による肝炎診療・制度に関する知識習得のための講義をオンデマンド配信。

9月2日の実践研修では、当院の野ツ俣和夫肝炎患センター長と肝炎医療コーディネーターの橋本まさみ看護師が講義。肝炎患者の思いについてオレンジ



医療者としての自身の使命感が高まった」といったコメントが

寄せられました。

〈済生記者 田中一弥〉

認知症支援 オレンジ色の輪を広げよう

当園が運営を受託している三条市地域包括支援センター嵐南は、9月の「世界アルツハイマー1月間」に合わせて、認知症支援の輪を広げる啓発活動を行いました。

9月5日、「みんなの居場所 まんなかテラス」参加者にご協力をいただき、当園正面玄関をオレンジ色に飾りました。

同時に、嵐南地域のお店、病



〈新潟〉特養長和園

院・診療所・調剤薬局、福祉事業所に、認知症月間ポスターの掲載とオレンジドレスアップへの協力を要請。約70カ所がこの活動に賛同し協力をしてくれました。

9月14日には「認知症VR体験会」を三条総合福祉センターで開催。地域住民30人が参加しました。この体験会は昨年に続き2回目。認知症の症状体験とグループディスカッションを行ない、認知症への理解を深めることができました。

〈済生記者 西川まゆみ〉

岡山済生会総合病院

高畑診療部長に松岡良明賞

9月8日、当院総合診療科の高畑隆臣診療部長に、がん撲滅に功績のあった個人・団体をたたえる「松岡良明賞」（山陽新聞社会事業団）が授与されました。

高畑部長は1991～201



7年までの胃がん手術症例約4000症例の発病の経緯や手術内容など詳細な臨床データを、さまざまな手段を用いて約20年間にわたり調査。

集積したデータから導き出した結果を手術方法や術後管理方法、再発例に対する治療方法などに反映し、進行胃がんのステージⅣの患者の5年生存率引き上げ、縫合不全などの術後合併症対策にも取り組みました。

高畑部長は今回の受賞について「自分が進むべき外科医の道に教え導いてくださった恩師や同僚と巡り会えたことで、今の自分がある。周りのスタッフには大変感謝している」と語りました。

〈済生記者 高畑貴子〉



ハワイアンフラを楽しむ会
 8月19日、北棟2階エレベータホールで「ハワイアンフラを楽しむ会」を開きました。当日は看護部の協力で、30人近くの患者さんに鑑賞していただきました。

うときには自分から動けるようになりたい」「実践での研修はわかりやすかった」といった声がありました。
 (済生記者 酒井あい)

〈大阪〉中津病院



〈栃木〉宇都宮病院
ブラック・ジャックセミナー

第7回「ブラック・ジャックセミナー」を8月19日に開催し、中学生41人が参加しました。ブラック・ジャックセミナーは、実際に治療現場で使用される医療機器を用いた手術体験です。将来を担う多くの学生たちに、医療現場での体験を通じて「将来医師になりたい」「医療に携わりたい」という興味を抱いてほしいとの思いが込められています。

当日は、超音波メスや手術縫合体験、内視鏡トレーニング、救命救急体験など計六つのアクティビティを用意。学生たちは30人を超える外科医から指導を受けながら、真剣な眼差しで取り組んでいました。

参加者からは「先生方が楽しく教えてくれたので、緊張もほぐれリラックスできた」「参加前より医師になりたい気持ちが大きくなった」などの声がありました。

41人全員が医師になって市民の命を守ってくれますように。
 (済生記者 川原彩花)

大分県地域生活定着支援センター
弁護士会との連携強化を

大分県弁護士会刑事弁護センターの要請を受け、7月18日、県内の弁護士が参加する勉強会(参加者26人)に出席し、弁護士と連携して支援した事例を紹介しました。

令和3年度から、刑事司法手続きの入口段階にある被疑者・被告人等に対する福祉的支援が「被疑者等支援業務」として当センターの正式業務に追加されました。このため、よりいっそ

**来年の済生会学会に向け
 院内研究発表会で選考**

〈福岡〉大牟田病院

第76回済生会学会・令和5年度済生会総会(来年1月・熊本)への選考会を兼ねた院内研究発表会を、8月7・8日の2日間で開催しました。

今回は例年より多く、5部署11演題がエントリーされました。テーマは、各部署で1年間から数年間のデータを基にしたもの、コロナ感染ワクチン接種後の副作用に関するもの、症例発表などがありました。稲吉康治院長はじめ10人の審査員が6項目3段階の評価を行いました。発表後の質疑応答



では、厳しい指摘も。今後の展望に関する助言、アドバイスなど、活発な意見交換が行なわれました。

どの発表もすべて素晴らしいことだと思います。日頃知ることのできない他部署の活動や、抱えている課題、目標を知る上でいい機会となりました。

(事務部 松岡 健)

**子どもたちの命を守る
 BLS研修**

当院の共同利用型院内保育所「なでしこ保育園」で、7月21日、8月8・24日の3回に分けてBLS(心肺蘇生法)の研修会を行ない、保育士ら32人が参加しました。

BLSは、突然の心停止などの緊急事態に迅速かつ適切に対応するための手法。園児の安全と健康を守るためにも身につけておかねばなりません。参加者はBLSインストラクターから、心肺蘇生技術やAED(自動体外式除細動器)の使い方などについて学びました。

研修を終えた参加者からは「この経験を生かしていきたい」と題して講演を行な



う弁護士と連携して支援に臨む必要が生じています。

当日は事例を通して、犯罪や非行をした高齢者や障害のある人たちに対する福祉的視点をもった関わり的重要性について説明しました。専門とする分野は違いますが、弁護活動の視点について学び、福祉的支援に通じる点が多くあることに気づきました。

(相談員 黒木晃平)

〈福岡〉飯塚嘉穂病院
市民講座で院長が講演

9月2日、飯塚医師会館・講堂で市民医療講座が開催され、当院の迫康博院長が「糖尿病の養生訓」糖尿病は予防すれば怖



くない」と題して講演を行ないました。

この講座は、地元の西日本新聞社が地域貢献活動の一環として行なっているもので、約30人の市民が参加しました。

迫院長は、近年糖尿病が全国的に増加傾向にあり、その予防が重要であることを強調。発症した場合には合併症などが発生しやすく、重篤な病気につながることもあることから、早期発見・早期治療の大切さを訴えました。

飯塚市は、全国でも糖尿病患者や予備軍が多い地域です。参加者たちはクイズ形式の講演に興味津々。終了後も病気に関するさまざまな質問があり、迫院長が丁寧に答えていました。

(済生記者 春口勇介)

〔新潟〕 三条病院

ソフト大会
地元開催に盛り上がる

第41回北信越ブロックソフトボール大会が8月27日、三条市の三条・燕総合グラウンドで開催されました。



当日は6病院から103人の選手が参加。連日の酷暑に固く乾いたグラウンドで、熱い戦いが繰り広げられました。当院の初戦（対新潟病院）は、1回、2回と得点を重ね、リードをキープしたまま10対4で勝利。第2戦（対金沢病院）は、今大会最高齢の郷秀人医師も打席に立ち

渾身のプレー。健闘むなしく2対6で敗れ、決勝には進めませんでした。地元開催に職員も応援に訪れ大いに盛り上がりました。

大滝和門監督は、「チーム目標の『Enjoy Softball』のもと、選手たちが全力プレーで試合を展開してくれたことをうれしく思います」と大会を振り返りました。

（企画経理課 野水かれん）

〔埼玉〕 川口総合病院

感謝の気持ちが励みに

9月8日、「サンクス Clover 表彰式」を当院講堂で行ないました。

褒め合うこと、認め合うことを大事にする当院には、患者さんから職員へ感謝の気持ちとして送られる「サンクスカード」、職員から職員に送る「Good Job！カード」「Good Job！推薦」というものがあります。それぞれカードを受け取った職員を対象に、感謝と労いの気持ちを四つ葉のクローバーに込めて年に1回行なわれるのが「サンクス Clover 表彰式」です。実は筆者も「Good Job！推



薦」をいただきました。自分の仕事を見てくれている人がいて、「いいね」と伝えてもらえることは純粹にうれしく、働く意欲や励みにつながります。自分もまわりの職員に対して伝えていきたいと改めて感じました。

さらに今年3年連続で「サンクスカード」を受け取った職員9人に、「接遇マイスター」プレートが贈られました。

（済生記者 原 衣里奈）

滋賀県病院

医師の働き方改革に向けて

医師の労働環境改善と健康確

み、医師の労働環境を担保しながら、地域住民のみならずに必要な医療を提供できる体制を維持していきます。

（済生記者 西澤真由美）

ワークステーション型ドクターカー出発

〔埼玉〕 加須病院

当院は、ワークステーション型ドクターカーの運用について埼玉東部消防組合と覚書を締結し、9月1日から試験運用を開始しました。

利根保健医療圏初の救命救急センターに指定された当院には、県内初の「常駐型救急ワークステーション」（埼玉東部消防組合 加須消防署）が併設されています。

ワークステーション型ドクターカーは、消防署が所有する救急車（高規格救急車）に、必要に応じて当院の医師・看護師が同乗して救急現場に出動するというもの。緊急度や重症度の高い患者さんに対して病院外で早期に診療を開始でき、救命率の向上や後遺症の軽減が期待できます。

当面は試験運用を行ない、その効果を検討した上で本格運用

を目指します。消防との連携を今まで以上に強固にし、プレホスピタル・ケア（病院前救護体制）の充実強化を図ります。

（済生記者 蓬田絵里子）

〔群馬〕 前橋病院

ホームページをスマホ向けにデザイン一新

9月1日、当院ホームページを全面リニューアルしました。

デザインを一新し、動画や写真を多用することで視覚的にイメージが伝わるようにしました。また、コンテンツを整理し、アイコン状の見出しボタンから見たい情報にすぐアクセスできる構成にしました。

スマートフォンやタブレットに対応したレスポンス



前橋病院
ホームページ



プサイトにしたのも大きな目的の一つです。過去1年間で8割以上をスマホからのアクセスが占める状況に対応しました。また、リニューアルと合わせて公式YouTubeチャンネルも開設しました。現在、公開する動画コンテンツのための撮影・編集作業を進めているところです。

インターネットを利用した情報発信の重要性が増していく中、当院も最新情報を随時更新し、患者さんや利用者さんにとって有益となる情報発信をしています。

（広報・情報課主任 川原田直樹）

保を目的として、来年度から医師の働き方改革が開始されます。この制度により、勤務医の年間残業時間の上限が960時間（A水準）と定められます。ところが当院は三次救急医療機関であり、地域医療提供体制確保の観点から救急集中治療科等、必要な診療科において暫定的に年間残業時間の上限が



1860時間となる特定地域医療提供機関（B水準）の指定を受ける必要があります。そこで一昨年からワーキングチームを立ち上げて準備。昨年

地域に愛され20年

〈大阪〉千里病院

開院20周年を記念して、9月4日、吹田市の矢野哲也アトリエ・矢野さんから、自筆の病院風景画を寄贈いただきました。緑豊かな千里南公園をバックに、当院が透明感のあるタッチで描かれています。よく見るとドクターカーやDMATカー、マスコットキャラクターになったPONTA像など、細かいところまで丁寧に描かれています。心が和みます。

開院20周年のキャッチフレーズは、「地域に愛され20年。千里病院は、これからも、地域とともに」。10月21日には周年記念祝賀会、同28日には地域向けイベントを予定しています。

（済生記者 秋山みゆき）

東神奈川リハビリテーション病院

在宅食支援で連携強化

今年度の横浜市の重点テーマは緩和・心臓（リハ）・糖尿病・摂食の四つです。8月29日、神

奈川区医師会の活動として「在宅食支援（摂食・嚥下）の会」が当院で開催されました。当日は、当院の寺見雅子摂食嚥下認定看護師、リハビリテーション科の鈴木俊幸医師が「摂食嚥下外来の紹介」について講演。神奈川県病院からは歯科口腔管理科の後藤陽子部長が「摂食嚥下に関する歯科の役割」について講演を行いました。

参加者は医師・歯科医師・ケアマネジャー・訪問看護師・管理栄養士など多職種46人。講演後は活発な質疑があり、地域で顔の見える関係を構築し摂食・嚥下について連携を深めるよい機会となりました。

（医事課長 濱崎啓師）



山口総合病院

BLS講習は勤務時間内

RRT（急変対応チーム）の取り組みとして、勤務時間内でのBLS（二次救命処置）講習会を6月から始めました。以前は休日に3時間程度かけ、20人程度の受講生に対し講習会を開催していましたが、コロナ禍以降は休止状態になっていました。

しかし、今年5月から講習会を復活。開催方法を見直し、勤務時間内16〜17時の1時間で受講者3人程度、回数は週1〜2



回と頻回に行なうことにしました。開催場所も、器材がすぐに準備できるシミュレーション室とし、効率的に開催できるようにしました。「1時間でしたが勉強になりました」「勤務時間内の受講はうれしいです」と受講生からも好評で、今後も継続していきたいと思っています。

（健康増進部主任 正崎由美子）

〈鳥取〉境港総合病院

真剣な眼差しで看護師体験

7月31日から4日間にわたり当院で看護師体験イベントを行い、鳥取県内の高校生18人、中学生7人が参加しました。

看護技術体験では、衛生学的手洗い、バイタルサイン測定、感染予防技術として防護具の着脱などを体験。コロナ感染予防対策として当院看護師が制作した動画「当院看護師の仕事」も視聴しました。

「チームで支え合いながら看護している姿が印象的だった」「看護師はコミュニケーションを通して患者さんの心まで支える仕事なのだ」と実感した」「自分が

どんな形で人の役に立てるのか、すごく考える時間になった」など、奥深い感想がありました。学生たちの真剣な眼差しは、私たちにとても初心を思い返すよい刺激となりました。

（済生記者 亀尾美子）

〈兵庫〉特養ふじの里

家族も招待して暑氣払い

猛暑の夏を乗り切ろうと、8月5日、ちらし寿司と揚げたてアツアツのコロッケをメインの献立に、4年ぶりに食事を開催しました。

藤の会（家族会）の八尾雄孝会長の提案もあり、今回は会長はじめ5人のご家族を食事会に招待しました。

「こんな豪華な食事久しぶりに食べたわ」「彩りがきれい、やね」「揚げたてはやっばりおいしいわ」と、入居者さんには大好評。ちらし寿司の量が少し多いかなと心配しましたが、残さず食べる入居者さんに職員もびっくりしました。

久しぶりに家族と共同で行事を行なうことができ、入居者さんはもちろん職員の喜びにもつながり、楽しい時間を過ごすこ



とができました。

（ふじの里東館介護主任 井手口 良）

〈神奈川〉横浜市南部病院

「つなぐ」で連携を深める

8月25日、今年初の「つなぐ看護ネットワーク（略称…つなぐ）」を開催しました。

「つなぐ」は、当院と横浜市港南区の訪問看護ステーションとの連携を深めるとともに、入院前から在宅をイメージした支援ができる看護師の育成と在宅療養支援の質の向上を目的に、2017年にスタートしまし

た。コロナの影響で19年に休止したものの、21年からはオンラインで再開（年2回）。今回はコロナが5類になってからの病院の状況や、訪問看護との連携について話し合いました。4事業所から10人が参加し、オンラインながらも久しぶりに会えたことを喜びました。こうしてつながっていくことで信頼関係を築き、当院の退院支援をさらに充実できたらと考えています。

（入退院支援センター 担当師長 菊池友紀）



フィリピン有数の医療機関が視察来訪

滋賀県病院

9月8日、当院が導入したロボット手術装置「センハンス・デジタルラパロスコピー・システム」の視察のため、フィリピンで有数の医療機関であるSt. Luke's Medical CenterのCEO、医師、看護師ら9人が当院を訪れました。

当日は、センハンスによる胆

〈北海道〉発達支援事業所

きつずてらす

「わっしょい、わっしょい！」「潮ねりこみ」に参加

7月29日、おたる潮まつりの目玉「潮ねりこみ」に小樽市内各所からの

チームに加え、きつずてらすでも5〜17歳の子どもたちと一緒に約40人がグループに分かれて参加しました。

気温30度超えの晴天の中、ねりこみ参加



囊摘手術を見学。一行は機械の操作性や使用している備品などについて、通訳を通じてスタッフから詳細を熱心に確認していました。その後、当院医師とデイスカッションを行ない、有意義な意見交換の場となりました。今後も新しい医療技術を取り入れながら、滋賀県で高度な医療を提供し、地域住民のみならずの健康に寄与します。

（済生記者 西澤真由美）

者総勢約5000人が小樽の街を練り歩きました。

山車を飾るちようちゃんには、子どもたちが描いてくれたきつずてらすのキャラクター「きりりん」の絵が。「わっしょい、わっしょい！」という子どもた

ちの大きなかけ声にスタッフも励まされ、無事に全員で踊り切ることができました。日々の活動の中で少しずつ練習してきた潮音頭を本番で堂々と踊る姿がとてもカッコよかったです。

（管理者 小玉武志）

〈滋賀〉特養淡海荘

民生委員、ケアマネ大集合！

民生委員とケアマネジャーの交流会を、8月23日に地域包括



支援センター主催で行ないました。

目的は、顔の見える関係づくり。地域で活動している民生委

員とケアマネジャーのとの交流を深め、互いの役割を知ることができればと企画しました。

交流会は大盛況で、地元の民生委員、ケアマネジャー併せて約50人が参加。グループワークでは日頃の困りごとを話し合いました。

今後も地域包括支援センターがパイプ役となり、横のつながりを強化することで、高齢者が住みやすいまちづくりを目指したいと思います。

（粟東地域包括支援センター 永原 聡）

熊本福祉センター

クリーン活動で
過ごしやすい環境づくり

7月28日、内田施設（ほほえみ・かがやき・ウイズ・グループホームの4事業所）のクリーン活動を実施しました。

各事業所から1人ずつ招集された参加者は炎天下、環境整備委員会の田川貴浩課長の指示のもと、草刈り後の枯れ草を集める作業を行いました。

みなさん汗だくになりながらの作業に熱中症にならない心配しましたが、作業後には田川



課長よりアクエリアスの差し入れがあり、息を吹き返していました。

毎週金曜、午後4時半から5時までと短時間ですが、内田施設の環境整備を行ないながら普段接点の少ない職員とも交流ができ、活気のあるひとときとなっています。

（事務局総務室 中川誠一朗）

〈大阪〉野江病院

緩和ケアを徹底的に学ぶ

第11回緩和ケア研修会を、9月3日に当院会議室で開催しました。当研修会は外部ファシリテーター（講師）をはじめ緩和ケアチームスタッフの協力のもと毎年開催。がん等の診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、その知識や技術、態度を修得することを目的としています。

今回は院内外の医師・看護師・管理栄養士の24人が参加し、講義に加えロールプレイやグループワークを通じて、緩和ケアについて多岐にわたり徹底的に学びました。

参加者からは「非常に有意義」



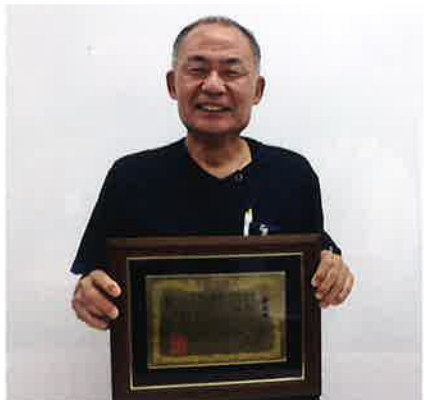
「勉強になった」「講義とロールプレイとで積極的に学ぶことができた」といった感想がありました。

（がん相談支援センター 副看護師長 渡邊美貴）

〈埼玉〉加須病院

猪浦科長に伊藤機一賞
国内で12人目の受賞

猪浦一人臨床検査科長が、臨床一般検査分野の発展・向上に功績を残した人に与えられる「第10回伊藤機一賞」を受賞し、9月9日、日本臨床一般検査学会で表彰されました。国内で12



しいシステムが導入されていますが、今まで築いてきた検査技術を伝えていくことも今後の臨床検査の発展につながると考えています。今後も臨床検査技師として尽力していきます」と受賞の思いを語りました。

（済生記者 蓬田絵里子）

人目の受賞となります。

埼玉県臨床検査技師会理事など多くの要職を努め、学会・講演会で尿沈渣の上皮細胞や異型細胞の見方をわかりやすく解説するなど、尿沈渣35年にわたり活動してきた実績が評価されました。さらに、国民医療の向上発展に寄与した功績が認められ、厚生労働大臣表彰も併せて受賞しました。

猪浦科長は「時代とともに新

愛知県三河青い鳥
医療療育センター

苗から育て、スイカ割り

開所3年目の1B病棟では、今年も8月15日に、利用者さん19人とスタッフ7人でスイカ割りを楽しみました。

夏の恒例行事となったスイカ割り。今年は5月に利用者さんと苗から植えたスイカを使おうと、毎日の水やりを頑張っていました。



当日は、大きく育ったスイカに初めて触る子ども。たたいている途中で香ってくる匂いに皆ワクワクしながら、スイカが割れると利用者さんもスタッフも一緒に興奮して「わあー!!」と声を出していました。割れたスイカを囲んでの試食では、スイカの甘さに笑顔になる人、おかわりをする人もいて、皆で育てたおいしいスイカの味を共有することができました。また来年も病棟で

育てたスイカを味わいたいですね！
(保育士 田島宏美)

熊本福祉センター

「夕べの集い」を再開
利用者と向き合う時間に

コロナ禍で3年ほど休止していたグループホーム内田1番館での「夕べの集い」を、6月から再開。毎週火・木曜の17時半〜18時で実施しています。久し



山形 特養ながまち荘
サラヤ広報誌から取材

8月25日、消毒液や感染症対策のデイスポ用品を製造販売するサラヤ株式会社の取材を受けました。

同社の広報誌に、当施設でのコロナ感染症発生時の様子や、介護施設での感染症対策に関する記事を掲載したいとのこと。

日々の業務に追われて利用者に寄り添う時間が少なくなり、しっかりと利用者に向き合う場がなかったため、良いひとときになりました。
(グループホーム 支援員 山下賢二)



取材には金澤邦子看護師、佐藤美幸主任管理栄養士、長岡真弓主任介護職員、勅使河原明奈介護員が対応。2回のコロナ感染症発生時の感染経路、拡大の経緯や原因を説明しました。また、介護施設という利用者の生活の場でどこまで人との接触を断つのか、感染症対策に加えて転倒や異食等の事故対策

も同時に求められる状況の中で、最善な対応とは何か、考え続けなくてはならないことを伝え、取材は終了しました。当荘の経験と反省が他施設にも役立てば幸いです。
(主任介護職員 長岡真弓)

東京 中央病院
地元神社の例大祭へ参加

9月8〜10日、当院近くの三

田春日神社の例大祭が執り行なわれました。最終日の10日には神社の神輿を各町内でつなぎ、それを終えると各町内会の神輿を担いでそれぞれの町内を練り歩きました。当院からは職員11人が参加。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催ということで、多くの参加者が朝早くから集まって神輿を担ぎ、にぎやかに近隣町内を回ることができました。威勢のよい掛け声に合わせて



皆で大きく神輿をゆすりながら動く様は、祭りを大いに盛り上げていました。印象的だったのは、近くのイタリア大使館の職員やそのご家族が、法被や浴衣を着て祭りに大いに楽しんでいました。さすが港区、国際色豊かです。近年は神輿の担ぎ手が少なくなっている町会長さんが嘆いていました。次回以降も、当院の祭り好き職員で参加できるといいなと感じました。
(広報室長 佐藤弘恵)

石川 金沢病院
階段ウォークラリーで
節電&健康維持・増進

8月21日から11月10日までの

期間、節電や職員の健康維持・増進、さらなる階段利用促進を目的に全3回の「カロリークラリ」を実施しています。

期別	キーワード掲出期間	応募締切
第1期	8/21~8/25	8/28~9/1
第2期	8/18~9/22	9/4~9/8
第3期	10/18~10/20	10/25~10/27
	10/23~10/27	10/28~11/2
		11/6~11/10
		11/10~11/17

※応募回数は各期間1人1回まで！！
※不明点は、医療安全課までお問い合わせください
※各期別賞品は、各期別の応募要項をご覧ください
※各期別賞品は、各期別の応募要項をご覧ください
※各期別賞品は、各期別の応募要項をご覧ください

階段のどこかに、1週間ごとにキーワードを掲示。計4週で完成するキーワードを応募券に記入し回収ボックスへ投入すると、1クールごとに豪華賞品が抽選でもらえます。スタート地点の1階踊り場に、荒木勉院長・龍澤泰彦副院長・越戸和代看護部長共演による「階段ウォークラリーポスター」を掲示。職員が誰でも気軽に参加できるよう、院内電子掲示板でもお知らせしました。この活動が、さらなる節電意識の向上、職員の健康維持・増進、そして職員間のコミュニケーションのきっかけの一つとなり、病院全体の活性化につながればと考えています。
(済生記者 中川範彦)

〈栃木〉 特養とちの木荘
夜空に満開の花火



9月5日、毎年恒例の打ち上げ花火を行いました。
コロナ禍前は盆踊りがメインイベントで、その締めくくりに花火を打ち上げていましたが、近づく秋を感じながら晩夏を楽しんでいただけるよう、ここ数年は花火のみを実施しています。当日は夕立の予報がありましたが、幸い雨にも降られず、100人ほどの入居者さんが屋外や自室ベランダから花火を楽しみました。
間近に打ち上げられる花火の鮮やかさや豪快な音の響きは迫力満点で、あちこちから拍手や歓声が上がりました。「すごくきれいだった。こんな贅沢は初めて」と、気分華やぐ特別な夜となりました。
(済生記者 川上藍美)

京都済生会病院
移転後初めての防犯訓練

新病院移転後初となる防犯訓練を、8月25日、向日町警察署の協力のもと実施しました。今回は、警察への通報要領や



暴漢への対処を学ぶことを目的とし、暴漢対応演習と護身術の訓練を行いました。
暴漢対応演習には約20人が参加。救急にきた患者さんが暴言を吐いて傘を振り回し暴れている状況を想定し、救急受付や警備の対応を確認しました。暴漢役の真に迫る演技に緊張感が漂う中、暴漢への対応、警備への応援要請、警察への通報やほかの患者の安全確保など、冷静に判断し対応できていると評価されました。
護身術の訓練には30人以上が参加。向日町警察署の警察官から、刺叉を活用した訓練と護身術を指導していただきました。ユーモアあふれる指導にあちこ

〈大阪〉 吹田病院

「ともに」を大切に
地域の垣根を越えた場を

8月31日、当院センターホールにて「第1回在宅をともに考える会」を開催しました。
同会は4月に新設された「ホームケア支援課」主催による初の研修会。院外から在宅医師・訪問看護師・ケアマネジャーなど28人、院内から63人の計91人



が参加しました。
第一部は、在宅医療を提供する医師の立場から整友会診療所の財田滋穂理事長の講演。「病院から在宅へ切り目のない医療提供を目指して」というテーマでお話をいただきました。第二部は、退院支援におけるケースカンファレンスを実施しました。
アンケートの中には「病院は退院時に在宅での生活をいかにイメージできるか、地域は在宅での生活で何が必要か事前情報を提供することが重要」という所感もありました。
(ホームケア支援課主任 加藤尚子)

自販機で飲料を購入し
「済生丸」を支援

8月17日、海をわたる病院として知られる瀬戸内巡回診療船「済生丸」支援自動販売機を院内に設置しました。
岡山・広島・香川・愛媛県済生会支部の共同事業として運用する瀬戸内海巡回診療事業に



ついでには、運営費の不足分を4県が負担しており、その負担軽減の一環として導入したものです。
この自販機は「済生丸」専用フルラッピング仕様。売り上げの一部は支援金として寄付されます。先日、当自販機で飲料を購入した患者さんに思わず「ありがとうございます」と声掛けし、不思議な顔をされた一幕も。今後は、済生会の各施設や瀬戸内巡回診療事業に賛同する団体の協力により設置エリアや設

置台数を拡大し、支援の輪を広げていきます。
(用度課長心得 玉井秀明)

〈栃木〉 宇都宮病院
EIPENの講習会

9月15日、なでしこ保育園と病児保育施設おはなほいくえんの保育士・看護師を対象に、「アドレナリン自己注射薬の「EIPEN」の使用方法に関する講習会を開催しました。
この講習会は、園児に緊急性が高いアレルギー症状が現れた場合でも、EIPENを使用し適切に対応できることを目的とし、32人が受講しました。
講師は、当院の小児救急看護認定看護師の黒瀬仁子NICU/GCU病棟課長。アレルギー症状の緊急性の判断・対応方法について説明した後、EIPENのトレーナーを用いてどのように園児に対応するのかなどレクチャーを行いました。
アレルギー症状が起きないよう未然に防ぐことが第一ですが、万一に備えて正しい知識を持ち、冷静かつ適切に対処していくことの重要性を再認識する講習会

〈奈良〉 訪問看護ステーション
野の花

バスラ祭りの救護に二役

8月26・27日に「バスラ祭り」が開催され、岩井内科クリニックの岩井均医師が率いる災害医療チームDELTA（デルタ）が救護班として参加しました。当訪問看護ステーションの看護師1人もその一員として救護にあたりました。
婆沙羅（バスラ）とは音楽や舞楽などで自由に、目立つように演じることを指します。バスラ祭りは、そのパワーとエネルギーを練り広げました。
猛暑の中、熱中症症状で2人の傷病者は発生したものの、命には別条なく終えることができました。
(所長 丸山節子)



topics



は、外科の診療や処置、カンファレンス、クリニックとの連携等、地域に密着した医療を体験してもらいました。

矢ヶ部先生は業務以外にも地域の盆踊り祭りに参加したり、病院横の海へ行ったりと、豊浦を満喫できた様子。

地域医療研修で豊浦満喫

7月31日から8月25日までの約1カ月間、山口大学初期臨床研修医の地域医療研修の受け入れを行いました。

外科専攻の矢ヶ部朗研修医に

〈山口〉豊浦病院

「アルコールジェルの正しい付け方を聞いてよかった」といった声が多く上がりました。

（済生記者 酒井あい）



〈福岡〉大牟田病院 病院車3台をリニューアル

済生会カーリース制度を利用し、7月25日、3台の病院車を

リニューアルしました。

病院車はさまざまな場面で活躍していますが、購入から10数年が経過し、山間部でのエンストや夏場のエアコン故障、集中豪雨での浸水被害など、ここ数年トラブルが続いていました。

新しい病院車の側面に施された済生会のシンボル「なでしこ」の清潔感のあるデザインは患者さんの評判もよく、スタッフも身の引き締まる思いで運転しています。

旧病院車には、道路の冠水で事務所へ戻れず恐怖の中車内で数時間過ごした事など、思い出が尽きません。これまで支えてくれたことに改めて感謝し、今後はこの新しい病院車をフル活用することで、地域の医療に貢献できるよう尽力します。

（リハビリテーション部主任 理学療法士 小柳貴志）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 中学生は将来、薬剤師!?

8月9日、当院薬剤部で職場体験学習を行ない、2人の参加がありました。

職員の家族で薬剤師の仕事に興味がある、または医療系学部・



学校への進学を希望している中学生を対象としたもので、昨年度に続き2回目の開催です。

今回は調剤・調製体験はもとより、病院内や近隣調剤薬局の見学も実施。薬ができるまでの流れや薬剤師の業務内容について学んでもらいました。

普段できない体験に、子どもたちは、「また体験したい」「進路について考えるきっかけになった」「薬剤師の業務についてより深く知ることができた」と話しており、将来の自分についてイメージする機会が持てたようです。

（済生記者 今野正俊）

「いきいきフェスタ」に出張ブース

静岡済生会総合病院

8月21日、静岡県立大学小鹿キャンパスで行なわれた「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」にブース出展し、約50人が来場しました。

当院ブースでは、健康管理センターによる身体計測・視力測



定・血圧測定・健康相談のほか、TQR M（医療の質・危機管理）センターによるお薬相談と手洗いチェック、支部・地域包括ケア連携士による脳トレと活動報告展示を実施。

手洗いチェックの参加者からは「きちんと洗えているかと思

や亡くなったご家族、友人を偲んで心を寄せ合いました。

新型コロナウイルスの影響により、ここ数年はさまざまな制約のもとで過ごしてきましたが、今年度は、入所者さんの健康と安全を最優先に考えながら、感謝の気持ちを表すこの大切な儀式を執り行なうことができました。

感謝の気持ちを込めてお参り



し、ともに過ごすことで絆を深め、心の平穏を感じることができたと思います。

この日を無事に迎えることができ、感謝しています。今後も大切な伝統行事を続けていきます。

（介護職員 鈴木光昭）

目標は特定看護師の全部署配置

〈神奈川〉横浜市南部病院

当院は8月31日、看護師特定行為研修指定研修機関として認定されました。

当院には現在、外部の研修機関で研修を受けた特定看護師が4人在籍しています。さらなる医療・看護の質向上を目指し、特定看護師の全部署配置を目標に内部育成を行なうことを決め、多職種が協議を重ねながら申請準備を進めてきました。

来々4月からは「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と、「動脈血液ガス分析関連」の特定行為2区分を開講します。

〈山形〉特養やまのべ荘 感謝と結末の盆供養

8月8日は盆供養の日。当日は地域の住職を招き、荘の仏間に集まった入所者のみなさんと職員11人が、荘で看取られた人

あいさつで
明るい職場に！

〈栃木〉宇都宮病院

9月11～15日の5日間にわたり、朝8時から15分間、管理職と教育研修部門のメンバー20人が病院正面玄関と西口に立ち、職員や患者さんに対し明るくあいさつを行いました。



管理職から積極的なあいさつの姿勢を受け、笑顔であいさつに応える職員や患者さんの姿が多く見受けられました。これは、教育研修部門が新たに企画し実施した「あいさつ推進活動」の一風景です。

以前から組織における挨拶の重要性を訴えてきた野間重孝院長。「あいさつは文化。職員間のあいさつ意識をより高め、コミュニケーションの機会を増やすことで業務の生産性を向上し、より風通しのよい明るい職場へと成長させたい」との思いから、職員専用の院内ポータルサイトでも、あいさつの重要性を伝える動画を作成し公開しています。(済生記者 川原彩花)

〈神奈川〉横浜市南部病院
3年半ぶりの対面講演会

医療倫理セミナー「透析の導入、非導入における倫理的問題と意思決定支援」を、8月31日に開催しました。コロナ禍以降、実に3年半ぶりとなる対面開催となり、参加者は会場とオンライン合わせて100人を超える大盛況。

講師に臨床倫理分野のトップランナーである三浦靖彦・岩手保健医療大学教授をお招きし、増加する透析患者の意思決定支援について分かりやすく、現場の状況に即してお話いただきました。



現代は協働意思決定(Collaborative Decision Making)の

〈岡山〉吉備病院

職場体験プロジェクト
「きびドリサポ」始動！

時代であり、患者・家族のナラティブ(ものがたり)を基盤とした最善の方針を探ることが大切であることを学びました。(統括教育センター キャリア支援室長 嶋中ますみ)

当院で働くさまざまな職種の仕事を知ってもらおうと、地域の中学生を対象とした「職場体験プロジェクト」の企画メンバーを院内で募集したところ、事務職を含む全職種から総勢19人の応募がありました。

9月7日にキックオフミーティングを開催し、チームネームを「きびドリサポ」に決定！吉備病院の「きび」、夢を育む「ドリム」、プロジェクトを共創する「サポート」からとりました。

11月には市立足守中学校と高松中学校の2校の受け入れを予定しています。たくさんある職業の中から「医療」を選んでくれた生徒さんの期待に応えられるよう、11月に向けて職員も楽しみながら



アイデアを出していきます。(済生記者 難波美紀)

〈新潟〉特養長和園
おとな・子ども食堂で
サマーランチ

当園が地域貢献活動として運営する「A.O.Z.O.R.A おとな・子ども食堂」で、7月と8月にサマーランチを開催しました。

きっかけは、介護予防教室の利用者さんの「昼食をみんなで食べたい」という声。感染症予防対策が緩和されたこともあり、まずは7月19日に高齢者のみ10食限定で提供しました。

8月25日には高齢者と子どもを対象に20食を提供。あわせて子どもには当園歯科衛生士が



大盛況！
4年ぶりの夏祭り

8月26日、当施設と松山病院合同で4年ぶりに夏祭りを開催しました。テーマの「ともに」には、「地域の方々とともに楽しみ、コミュニケーションを深めたい」という思いが込められています。

二部形式で、一部は当施設内でのウオークラリー。介護予防に関する八つの体験ブースを設け、スタンブレイ形式で参加者に各ブースを回ってもらいました。

二部は松山病院正面駐車場を会場に、屋台、盆踊り、水軍太鼓など盛りだくさんのプログラ



ム。小雨が降りましたが、空にかかった大きな虹が開会のあいさつを彩ってくれるという奇跡も！

夏祭り全体で延べ570人が来場し、参加者からは「こんな機会はいくらもなかったけれど本当に楽しいね」との言葉をいただきました。

(作業療法士 高市 萌)

滋賀県病院

藤井明弘医師に
救急医療功労者知事表彰

9月4日、「救急医療功労者知事表彰」が滋賀県庁で行なわれ、当院診療部長兼脳卒中セン



ター長の藤井明弘医師が表彰を受けました。

藤井医師は「2010年に当院に赴任以来、救急集中治療科・脳神経外科と協力して24時間体制で脳卒中を含めた神経救急疾患の診療を実現してきたことが表彰につながったと思っています。当初私一人だった脳神経内科も5人体制になり、SCU開設運営や脳卒中市民

公開講座の開催など脳神経外科や関係部署の協力があり実現できています。今後も当院、そして滋賀県の救急医療の発展のため全力で取り組みたい」と表彰への思いを語りました。

今後も病院一丸となって、救急医療の提供に努めていきます。(済生記者 西澤真由美)

〔埼玉〕川口総合病院
年に一度の成果報告会

8月29日、昨年度の成果を報告する「成果報告会」を当院講堂で開催し、各部署から九つの成果が発表されました。
その中から栄えある最優秀賞に輝いたのは、看護部5B病棟の新保知枝さんの発表「配薬業務改善に向けた取り組み」薬剤に関するインシデント減少を



めざして〜」。

病棟での配薬に関するインシデントの増加に強い危機感を抱き、改善するためのプロセスの見直しを提案。結果、インシデント件数の減少や配薬時間の短縮を実現したという素晴らしい内容でした。

また、優秀賞はリハビリテーション科「腎臓リハビリテーション開設の成果報告」、経営企画課「Instagram 5.60日間の成果」が受賞しました。

普段は関わりが少ない部署や職種の方の発表内容を聞くことで相互理解が深まり、互いにより刺激となつていると感じました。

（済生記者 原 衣里奈）

〔福岡〕二日市病院

新入職員向け防火研修で
消火器の使い方を学ぶ

8月18日、新入職員を対象に防火研修を行ない、44人が参加しました。

まず、会議室で施設課職員により、消火器を使う際の注意点、消火器の設置場所・数、火災通報装置、非常口や防火扉等について説明がありました。



次に屋上へ移動し、「消火の際は火元を狙う」「逃げ道に背を向け消火する」などのポイントを踏まえて、水の入った消火器を使つての消火訓練を実施。

実際に火災が発生した時のように、大声で「火事だ!」と周囲の人に知らせ、消火活動にあたりました。

今回は炎に見立てた三角コーンで消火体験を行ないましたが、実際に炎を前にすると恐怖で冷静な対処ができないと思います。消火器の正しい使い方、設置場所などをあらかじめ知っておくことの大切さを実感しました。

（経営戦略課主事 都甲七桜）

熊本福祉センター

お泊り保育で充実の2日間

7月28・29日、熊本市北区の施設「雑草の森」でお泊り保育を行ない、年長児34人と職員8人が参加しました。

まずは江津湖に寄り、網で小エビや小魚とりをして遊びまし



た。雑草の森に到着し、お家の人が作ってくれた「ばくだんにぎり」でお腹を満たしたとこ

思います。

（管理部相談課 南本貴史）



いまいみささんの
最新刊を
プレゼント!



いまいみささんの最新刊「決定版おりがみ図鑑」（講談社9月15日発売）を、本誌「てづくりおもちゃ」と済生会HP「いまいみさの魔法のおりがみ」をご覧の方5人にプレゼントします!

お花や動物、乗り物や季節の行事など100点以上がジャンル別に掲載。1年中使える一冊です。

広報室までメールでご応募ください。

koho@saiseikai.or.jp

申し込みは10月末まで。当選は発送をもってかえさせていただきます。郵便番号・住所・電話番号・氏名を記載の上、お申し込み下さい。

ろで、スポーツチャンバラやスイカ割り。夕食の準備では男の子がまき割り、女の子はカレーの食材切りをして、みんなで協力してカレーを作って食べました。
キャンプファイヤーを楽しんだ後はお風呂、そして寝る時間。昼間にたくさん活動をした子どもたちはすぐに眠りにつきました。

翌日、子ども園に帰って来ると、お家の人が迎えに来ていました。それを見た子どもたちのうれしそうな表情がとても印象的でした。
（しらふじ子ども園 主幹保育教諭 住岡直美）

報委員会が中心となり弔辞集「想い出」を発行しています。これは「最期までお世話させていただいた職員と共有できる想い出を作りたい」という職員の発案でスタートしたものです。今年が初盆に合わせて郵送しました。ご家族からは「難病を持つ母の介護を最後までしていただき、心から感謝しています」とお礼のお手紙などをいただきました。これからも、当施設で人生の最期の時間を過ごすことができよかったですと思っていただけのように、職員一同頑張りたいと

金子医師が奏でるピアノ演奏会

〈愛媛〉西条老健いしづち苑



9月1日、西条病院循環器内科部長の金子伸吾先生がピアノ演奏会を当苑内で開催しました。

金子先生は以前から苑内のグランドピアノで練習しており、いつも優雅に弾いている姿を見てきました。「ぜひ利用者さんに聴かせたい」とお願ひし、今回の演奏会が実現しました。

当日はショパンやベートーベン、ラフマニノフといったクラシック音楽から、皆がよく知っている地元のお祭りや盆踊りの曲まで全8曲が披露されました。

演奏を聴いた20人ほどの利用者さんは「素晴らしい！」「上手ね」と拍手喝采。「ピアノは弾けんけど感動した。心に響いた」と笑顔があふれていました。

認知症の予防や進行抑制に効果があるという音楽療法の一環として、今

後も定期的に開催したいと思います。

（事務長心得 曾我部晴美）

〈大阪〉泉尾病院

台風で職員が帰宅困難に

8月15日に台風7号が近畿地方に上陸しました。公共交通機関の多くが運休となりましたが、一部の交通機関を使って出勤した職員のおかげで、何とか通常の診療体制を維持することができました。

しかし、退勤時が大変でした。最寄り駅までの唯一の交通手段である大阪シティバスが運休となり、多数の職員が帰宅困難に。急ぎよ、患者さん用の送迎バ



スを利用し職員を最寄り駅までピストン輸送。100人を超える職員を無事帰宅させることができました。

患者さんへの医療体制を維持できたこと、そして台風の中出勤してくれた職員の安全を確保できたことに安堵しました。

（庶務課 酒井 仁）

〈東京〉中央病院附属乳児院

お祭り気分で購入物体験

当院では昨年に続き、今年6月にユニクロからたくさんの子



ども服の寄付をいただきました。その機会を利用して、院内で



お祭り形式のイベントを7月14日に開催。疑似店舗の屋台を出し、実際にユニクロ済生会中央病院店の3人のスタッフに「洋服屋さん」の店員として参加してもらいました。

子どもたちは好みの洋服を一生懸命に選び、おもちゃのお金を使って、本物に近い買い物体験をすることができました。

ほかにも「おもちゃの金魚すくい」や「たこ焼き投げゲーム」などでお祭りの雰囲気を楽しみました。

（理学療法士 新井保久）

大阪整肢学院

全員参加の夏まつり

8月26日、施設内で夏まつりを開催し、当院の子どもたち87人が参加しました。



子どもたちはかわいらしい浴衣姿で屋台を回り、輪投げや的当てゲームを楽しんだり、たこ焼きやかき氷を口いっぱいにおぼったり、本物さながらのお祭りの雰囲気を感じました。

広島病院

医療従事者を目指す契機に

8月22〜24日の3日間、近隣の坂中学校の2年生4人が来院し職場体験を行いました。看護部・医療技術部・事務部を巡る盛りだくさんの内容となりました。

医療技術部では説明するだけ



後にも定期的に開催したいと思

（事務長心得 曾我部晴美）

（大阪）泉尾病院

台風で職員が帰宅困難に

8月15日に台風7号が近畿地方に上陸しました。公共交通機関の多くが運休となりましたが、一部の交通機関を使って出勤した職員のおかげで、何とか通常の診療体制を維持することができました。

しかし、退勤時が大変でした。最寄り駅までの唯一の交通手段である大阪シティバスが運休となり、多数の職員が帰宅困難に。急ぎよ、患者さん用の送迎バ



スを利用し職員を最寄り駅までピストン輸送。100人を超える職員を無事帰宅させることができました。

患者さんへの医療体制を維持できたこと、そして台風の中出勤してくれた職員の安全を確保できたことに安堵しました。

（庶務課 酒井 仁）

〈東京〉中央病院附属乳児院

お祭り気分で購入物体験

当院では昨年に続き、今年6月にユニクロからたくさんの子



ども服の寄付をいただきました。その機会を利用して、院内で

ることができました。そして最後は、子どもたち・職員そろうての盆踊り大会！ドラえもん音頭にあわせて、上手に踊ることができました。保護者の参加は今年も見合わせることにりましたが、来年こそ一緒に参加していただけたら

（相談室 江崎佳浪）

ではなく、車椅子を自走させてりCTに寝てもらったりして、患者目線で医療従事者がどういったことに気を付けなければならぬかを考えました。筆者自身も写真を撮ることを忘れ説明に聞き入ったり、生徒さんと一緒に質問をしたりと、学びの多い時間を過ごしました。

「今まで医療関係に興味はなかったが、今回の体験で興味を持った」と話してくれました。

（済生記者 足利麻里子）

〈山形〉特養愛日荘

米寿・白寿・長寿を祝う

9月15日に敬老会を催し、米寿・白寿・長寿の17人の入居者さんをお祝いしました。

感染症予防のためユニットごとに行ない、全体での華やかな

催しはできませんでしたが、普段はしていないメイクなども準備。介護職員から「きれいですよ」と話しかけられ、はにかむように笑う表情が印象的でした。複数の入居者さんや職員が見守る中、阿部久施設長より一人ずつお祝い品が手渡され、ユニットの代表として長寿の入居者さんが挨拶しました。



入居者さんも昼食の敬老会メニューを楽しみ、みなさんおいしそに召し上がっていました。今年もご家族の来荘はかないませんが、来年こそはみなさんと一緒にお祝いできることを願っています。

（介護職員 松村一正）

〔石川〕金沢病院
ソフト大会準優勝！

8月27日に新潟県三条市で行なわれた第41回済生会北信越ソフトボール大会に出場し、準優勝と健闘しました。



コロナ禍で中断して以来4年ぶりの開催となり、北信越地区からは6病院が参加。当院からは放射線部の塚田靖憲監督含む14人の選手が出場し、夏空の下、高校球児に負けない熱闘を繰り広げました。

第1試合の三条病院との対戦は6対2で勝利。第2試合の新潟病院戦は、1回裏に打線が爆発して一気に14点を先制し、16対0と完勝しました。

決勝戦の相手は福井県済生会病院。1回表に2点を先制したものの、試合中盤に逆転を許し5対10で敗れました。

なお、リハビリテーション科の下郷遥さんが敢闘賞に選ばれました。

〔総務課 前田宏樹〕

〔鳥取〕境港総合病院
インターンシップ受け入れ

8月から9月にかけて医学生、看護学生、薬学生のインターンシップをそれぞれ受け入れました。

医学生は地域医療体験研修として県内出身の自治医科大学大学生3人が参加し、訪問診療に同行し、内視鏡検査の見学などを行いました。看護体験研修には看護学校から4人が参加しました。他院のインターンシップに参加した。



加していた薬学生からも当院を見学したいとの希望があり、薬剤科で化学療法のみキシングなどを見学しました。

教育担当者は、「出身地であるこの地で、地域医療を担ってくれたら」と話しています。

参加者からは「ホームページからの情報だけではなく、実際に見学することができてよかった」「病院の特色や働き方も併せて説明を聞いてイメージできた」などの感想がありました。

〔済生記者 亀尾美子〕

〔埼玉〕川口総合病院
「ありがとう」に感激

8月22・29日の2日間、高校生3人を迎えて「ふれあい看護体験」を実施しました。

当日はユニホームに着替えてもらい、佐藤雅彦病院長から1日看護師辞令の交付、名古屋恵子看護部長から「看護の日」についての説明を受けた後、看護体験がスタート。

1日看護師たちは入院病棟で、先輩看護師と一緒に患者さんの洗髪や足浴を緊張しながら行ないました。患者さんから「気持ちがいい。本当にしあわせ、ありがとう」と言葉をかけてもら



うと、「ありがとうの言葉がとてもうれしく、やりがいを感じます」と感激した様子でした。

看護師との座談会では、先輩の話に真剣に耳を傾けていました。記念に広報で撮影した看護体験中の写真をプレゼントすると、「看護師になれるよう、部屋に飾ります」と大変喜んでくれました。

〔済生記者 原 衣里奈〕

〔北海道〕発達支援事業所
小樽がらす市を大満喫

7月28日、小樽の観光地の一

つ、旧手宮線散策路で開催されている「小樽がらす市」に、子どもたち12人・スタッフ7人で出かけました。

会場にたくさん並ぶ協賛企業



のほりの中から「きつずてらす」と書かれたのほりを子どもたちと探しながら、小樽のガラスにちなんだクイズラリーにも参加。廃線となった旧手宮線の線路沿いを歩きながら実物の「浮き玉」を観察し、小樽の伝統と歴史を楽しく体験できました。

道すがら、子どもたちは飾られていたビー玉を転がして遊ぶ参加型パネルアートにすっかり夢中！クイズラリーの景品としてお菓子ももらえて、大満足の様子でした。

〔管理者 小玉武志〕

〔栃木〕宇都宮病院
楽しいお泊り保育

9月8日に5歳児のお泊り保育を実施し、5人が参加しました。

午前中の活動は、お屋さんごっこ。5歳児はかき氷屋さんの店員さんになりきって、小さなお客さんに一生懸命笑顔でかき水を振る舞っていました。

午後は、夕食のカレーの材料を切り、調理員さんが炒める様子を見学する食育体験とデザインプラートの製作など、普段経験できない活動に取り組みまし



夕方からは個別にシャワーで汗を流し、さっぱりしたところで夕食。食後の花火では色が変わる花火に歓声を上げ、楽しかった余韻を胸に眠りにつきましました。

翌朝、子どもたちがリクエストした朝食を食べてお泊り保育は終了。親元を離れて友だちと一晩過ごした喜びと満足感・達成感を味わうことができ、自信が芽生えた2日間でした。

〔保育園事務 福田 郁〕

滋賀県病院
新保育施設の地鎮祭

滋賀県病院事業所内保育施設

新築工事の地鎮祭を、8月22日、病院横の建設用地で執り行ないました。

当院の三木恒治院長、新棟建設準備室長の増山守副院長、松村智子看護部長をはじめ、建設会社、設計事務所の関係者13人が出席し、工事の安全を祈願しました。

新たに移動する保育施設は職員専用で、最大50人の子どもたちが利用可能。夏休み期間等の長期休暇の際に学童保育を受け入れる広さを確保しています。復職後も子育てと仕事の両立ができる働きやすい環境整備につながるものと考えています。

保育施設の開所は来年4月を予定しています。新施設に子どもたちの歓声が響き渡ることを楽しみに、安全には万全を期し、工事を進めていきます。

〔新棟建設準備室 澤本充史〕





〔大阪〕野江病院

将来はぜひ当院で看護師に

8月11日に大阪府立東淀川高等学校「看護医療コース」1年生6人、21・22日に大阪信愛学院高等学校「看護医療コース」45人を迎え、一日看護師体験を



実施しました。

参加者は当院看護師と同じユニホームを着用し、病棟で看護師とともに行動して看護の仕事を経験しました。

体験を終えて、参加者からは「自分が将来になりたい姿や看護師像をより鮮明に想像できた」「将来、野江病院で働けるように、勉強も人との接し方も学び頑張りたい」などの感想がありました。

短い時間でしたが、今回の経験を通していろいろなことを感じてもらったのではないかと思います。これからも看護体験を通して、看護の魅力を伝えていきます。

〔副看護部長 橋口絹代〕

大阪府済生会

**大阪府済生会
トップセミナー**

今年度の大阪府済生会トップセミナーを、9月1日に大阪新阪急ホテルで開催しました。参加者は92人。幹部職員が一堂に会したのは5年ぶりです。

セミナー講演の講師には、大阪公立大学客員教授の水内俊雄先生、色川法律事務所の高坂敬



三先生（大阪府済生会理事）をお迎えしました。

岡上武支部長の開催挨拶の後、水内先生には「大阪府済生会の地理的系譜と今後の地域医療・福祉需要の行方」を、高坂先生には「病院運営をめぐる法的リスクとその対処方法」をテーマにお話いただきました。

今後の病院・施設運営において、大変参考となる話を聞くことができ、有意義なセミナーとなりました。

〔支部事務局〕

〔福岡〕大牟田病院

看護部で救命救急講習会

8月25日、院内看護師を対

象に「第一回救命救急講習会 in O MUTA」を開催し、16人が参加しました。初回は基礎コース。心肺蘇生手技のスキルアップを目的に、心肺停止に対する蘇生処置に必要な基礎事項の習得をテーマとしました。



受講者からは「心肺蘇生や他の救急手技の確認ができ、実践

象に「第一回救命救急講習会 in O MUTA」を開催し、16人が参加しました。初回は基礎コース。心肺蘇生手技のスキルアップを目的に、心肺停止に対する蘇生処置に必要な基礎事項の習得をテーマとしました。

けでなく、チーム蘇生をマネジメントすることを通して役割分担の重要性や、その実践的な手順習得をテーマとした講習会を予定しています。

〔外来看護主任 辻口愛美〕

**モバイルトレーニングラボ
見学・体験会**

〔埼玉〕川口総合病院

9月8日、日本メドトロニック社の移動式手術トレーニング施設「モバイルトレーニングラボ」の見学・体験会を実施しました。

このラボは、X線透視下で手術のトレーニングができるトラックで、現在、アジアに1台しかありません。脊椎模擬手術と最新ナビゲーションを体験できるまたとない機会に、事務職員のみならずも挑戦してみました。

最新ナビゲーションを使用したトレーニングの体験者は、「遠隔でも指示ができるなど驚くことが多かった。これからの医療の技術格差を減少させてくれることを期待したい」と話しました。

医師だけではなく、普段手術を見ることがない病院職員たちにも、大変実りある見学・体験会となりました。

〔済生記者 原 衣里奈〕

〔山形〕特養ながまち荘

夜間風水害避難訓練

8月23日19時から夜間風水害避難訓練を実施し、利用者役22人を含む58人の職員が避難誘導班、救護班、記録係等に分かれて参加しました。

馬見ヶ崎川が氾濫した場合、市のハザードマップ上で当荘は浸水区域に指定されています。今回の訓練は、夜間に川が氾濫したとの想定で行なわれしました。

階の移動にはエレベーターを使用するため、混雑や混乱を回避し安全に避難することが求められます。

訓練は想定時間内に混乱なく終了



利用者役の職員からは「職員が駆け付け落ち着いて声をかけてくれたので安心した」「自分が一番後になり、忘れられているのではと不安になった」などの声がありました。

また、普段使い慣れない車椅子やエレベーターの操作に手間取るなど、課題も見つかりました。今後も訓練を重ね、非常時に備えたいと思います。

〔済生記者 高見友都〕



「ISO9001」の再認証審査が8月7～10日の4日間、BSIグループジャパン株式会社（英国規格協会）の審査員4人が来院し、行なわれました。

際にはワンちゃんの一芸が披露され、みなさんの笑顔がはじけました。
コロナ禍の影響で数年ぶりの交流でしたが、今後も動物たちとの触れ合いを通して入所者さんの心の癒やしや、心身機能の向上につなげたいと思います。
（済生記者 大森 智）

〈大阪〉中津病院

ISO9001再認証審査



夏祭りのご褒美はアイス

静岡市桜の園

8月23日、利用者さん約50人が参加して、施設内で夏祭りを開催しました。

「職員手作りのゲームを三つクリアしたら、アイスを食べよう!」という事で、ゲームをしているみなさんは真剣そのもの。紙で作った魚を釣り上げたり、ペットボトルを逆さまにしたピンをボウリングのように倒したり。

中でもボールを転がして穴に入れるゲームが一番難しかったようです。難しい分、ピタッと入ったときは、入れた本人はもちろん周りで見ている利用者さんも職員も一緒になって盛り上がりました。

ご褒美のチョコレートソースがかかったバナナアイスは、熱く盛り上がった気持ちを落ち着かせてくれました。
夕食後は、多少涼しくなりました。来年度も皆で盛り上がりたいですね。
（済生記者 原 史乃）

〈愛媛〉松山病院

笑顔の絶えない介護教室

8月31日に松山地域交流センターで「介護教室」を開催し、地域住民約60人が参加しました。参加者に事前に日頃の生活について伺いながら、血圧や血管年齢を測定しました。

当日は、当院の平田哲内科医師が動画やクイズを交え糖尿病についての講演を行ない、その中で家庭でできる運動を菊池広太郎研修医が実演。聴講者にも参加していただきました。

その後、当院糖尿病チームで結成した劇団「なでしこ一座」



が健診の必要性や動脈硬化についての寸劇を披露。聴講者は熱心に聞き入っていました。随所にユーモアを散りばめた寸劇だったため、笑顔の絶えない介護教室となりました。

（医師補助 仙波樹里）

〈長野〉佐久市特養シルバーランドみつい

ワンちゃんに癒やされて

8月22日、動物ふれあい事業の一環として、長野県動物愛護センター「ハローアニマル」か



ら犬3頭が職員に連れられ遊びに来てくれました。

当日は、入所者さん18人がワンちゃんたちと触れ合い「かわいいなあ」と犬の名前を呼びながら楽しく過ごしました。帰り

しこ神戸花火大会」を開催。

曇り空の中でしたが、利用者26人と職員が参加。色とりどりの花火に明るく照らされ楽しいひとときを過ごすことができました。

今年は吹き上げ花火をたくさん用意。クライマックスでナイアガラの滝に灯がともった瞬間はひととき大きな歓声が上がりました。

「花火は、いつ見ても綺麗だね」——笑顔を見せる利用者さん。夕食のスイカも「甘くておいしい」とうれしそうに食べていました。

とても記憶に残る花火大会になったと思います。

（副主任 木村奈月）

9月9日に開催された「長岡京まるごとヘルシーフェスタ」に、昨年に続き出展しました。今回は、昨年好評だった体組成測定に加えて血圧測定も実施し、その結果から看護師・保健師がアドバイスする形式にしました。

地域イベントで魅力発信!

京都済生会病院

8月25日、小規模特養なでしこ神戸の駐車場で行われた「なでしこ神戸花火に照らされ笑顔に」



〔滋賀〕 特養淡海荘
移動スーパードで社会参加

毎週火曜日と木曜日、移動スーパードの「とくし丸」が当施設玄関前で開店します。



「息子に買いモノ頼んだらスカタンばかり買ってきてよる」——近くにスーパーがなく、ましてや車椅子で簡単に買い物には行けない利用者さんの声があり、ニーズに答える形で2018年2月から開始。毎回、デイサービスセンターの利用者さん10人弱が利用しています。買い物目的はさまざまな。「孫の好品を」「自分の好きなミニトマトを」「たまには自分のご褒美におやつを」など……。とくし丸を利用することで、「自分で食材を直接見て選ぶ」「自分の財布からお金を出して支払う」楽しみ

が生まれました。社会参加の一つとなっているようです。

〔栗東〕デイサービスセンター
角田耕一郎

〔滋賀〕 守山市民病院
糖尿病の基礎知識を学ぶ

糖尿病ケアチームによる「糖尿病セミナー」を8月29日に開催しました。対面での開催は実に4年ぶりです。



糖尿病外来の通院患者さんや糖尿病に関心のある入院患者さんに参加いただき、「糖尿病の基礎知識や食事と血糖の関係」

「なぜ運動が大切か」などについて、岡本拓也医長、岸愛子管理栄養士、貝塚朗技師長（理学療法士）がそれぞれ講義を行っていました。

その後、運動療法として軽いストレッチと、音楽に合わせての運動を実施。腕の曲げ伸ばしや腿の上げ下げといった単純なものでしたが、4分ほどの曲が終わるとほどよい疲労感とともに達成感があり、参加者から笑顔がこぼれました。

気になることを医師に直接質問していただく場を設けるなど、糖尿病啓発の機会として有意義な時間になりました。

〔済生記者 中嶋元香〕

〔広島〕 老健はまな荘
笑顔あふれる職場体験

地域の中学校の職場体験学習を4年ぶりに再開し、8月22～24日の3日間、2年生の2人が療養棟や通所リハビリで介護職員の仕事を経験しました。

体験中にはこんな一コマも。通所リハビリ利用者で折り紙の達人の阿部益江さんの手ほどきを受けたときのこと。なぜか生徒さんの声が阿部さんに伝わら



このような楽しい出来事が生徒さんの介護を目指すきっかけになったらよいと思います。

3日間、生徒さんに働いてもらったおかげで利用者さんにも笑顔があふれていました。やはり変化がある生活は大切だと改めて感じました。

〔済生記者 佐藤 聡〕

〔兵庫〕 特養ふじの里
済生会の一員として
自覚を新たに

7月18日から26日にかけて、全職員を対象にコンプライアンス研修を実施。特養ふじの里・小規模特養などしこ神戸では



220人が参加し、映像資料を見ながら「コンプライアンス経営」と「組織管理統制体制の整備」について学びました。

コンプライアンスは法令遵守のみならず、社会的規範や倫理・道徳基準の遵守も含みます。社会福祉法人には、社会からの監視に耐えられる高潔性や、より高いコンプライアンス遵守が求められる、恩賜財団済生会の遵守規定の中にも、社会規範の尊重が掲げられています。

今回の研修を機に、職員一人ひとりが済生会の一員であるという自覚を新たにし、誇りを持って日々意欲的に仕事に取り組んでいくことの大切さを学ぶことができました。

〔ありのあんしんすこやかセンター 職員研修委員会 小俣文佳〕

〔山口〕 豊浦病院
BLSプロバイダーの
資格取得

9月2日、アメリカ心臓協会（AHA）公認「BLSプロバイダーコース」を当院大会議室で開催しました。

このコースは1日（6時間程度）の講習で成人・小児・乳児の一次救命措置（BLS）を学ぶもの。AEDの使用法や人工呼吸、窒息介助等ガイドラインに沿ったさまざまな内容が盛り込まれており、受講後の実技テストと筆記試験で合格基準を満たせば資格取得となります。

今回は看護師8人が受講し、全員がプロバイダー資格を取得しました。習得したスキルや知識を、地域の出前講座などで活



用・発信することで、平時における防災意識を高めていければと思います。

現在は施設内職員限定の講習ですが、ゆくゆくは地域の医療従事者や看護学生を対象を広げて展開していきたいです。

〔済生記者 西田千鶴〕

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

地域と病院を「コーヒーでつなぐ場所」として紹介

NAKANOTEI COFFEE 西山
〔京都済生会病院1階〕

京都府内のオシャレなカフェや美味しい飲食店などを紹介する人気の

地元情報誌「Leaf」2023年10・11月号の特集「今おもしろい！ 京都の郊外へ」に、当院1階の

就労支援カフェ「NAKANOTEI COFFEE 西山」が掲載された。地

域と病院を「コーヒーでつなぐ場所」と

ひこ賞味いただきたい。

〔企画広報室長 松岡志穂〕



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

私の人生の一部

8月26日、埼玉県戸田市の戸田ボートコースで開催された「東日本タイムトライアル（2000メートル）」に運営責任者として参加しました。



私は大学時代に体育会ボート部に所属。8人の漕手と1人の舵手が乗るエイトで大会に出漕しました。合宿所では、夏は4時に起きてストレッチ、乗艇、朝食、大学まで通学・授業。合宿所に戻り、乗艇、夕食、風呂掃除（1年生）、22時には就寝。試験が近づくとも睡眠時間を削る過酷な学生生活を送りましたが、同じ釜の飯を食べた先輩・後輩、全日本大インカレ後に酒を酌み交わした他大学の仲間とは、30年の時を経てな

るエイトで大会に出漕しました。合宿所では、夏は4時に起きてストレッチ、乗艇、朝食、大学まで通学・授業。合宿所に戻り、乗艇、夕食、風呂掃除（1年生）、22時には就寝。試験が近づくとも睡眠時間を削る過酷な学生生活を送りましたが、同じ釜の飯を食べた先輩・後輩、全日本大インカレ後に酒を酌み交わした他大学の仲間とは、30年の時を経てな

お付き合いがあります。今は大会運営側に回っています。が、時折、エイトを漕いでみたい気持ちに駆られますが、それは無謀なので、今はテニスを続けながら体力維持に努めています。

（本部総務部次長 渡邊世祐）

集え！ 瓢箪倶楽部！

茨城・常陸大宮済生会病院には「瓢箪倶楽部」があり、瓢箪を種から栽培し、一穴入魂、精神でランプを制作しています。現在のメンバーは看護師、医師、事務員など多職種20人。活動は月1回程度ですが、自宅で制作した作品披露は頻繁に行なっています。手作りしたランプを彼女にプレゼントした医師もいました。



季節に応じたランプを受付に展示しており、患者さんから「毎月楽し



みにしている」「写真を撮っていいですか？」とうれしい声を掛けていただいています。

栽培過程の報告も楽しく、「発芽した」「開花した」「人工受粉した」「着果した」「摘心した」と専門用語が飛び交い気分はすっかり瓢箪農家です。日々忙しく仕事に追われがちな生活の中で、倶楽部の活動はとても良い気分転換と仕事の活力源になっています。

（茨城・常陸大宮済生会病院 済生記者 小池直人）

★ランプの細密な点描アートもすごいですが、瓢箪の栽培からやっているとは！ みなさんの創作魂に感動！

（メデイカル・リーフ 坂本陽子）

リハビリを頑張る

念願の紙細工を再開

現在92歳のIさんは1歳年下の奥様と二人暮らし。手先が器用で、自宅の作業場で趣味の紙細工を楽しんでいます。

そんなIさんですが、昨年6月に



脳梗塞を発症。右上下肢の麻痺による歩行困難に加え、呂律が回らず会話もままならない状態になってしまいました。

しかしIさんは「また自宅で紙細工をしたい」との思いで、1・5キロの物を持ち階段昇降を行なうなど、懸命にリハビリに取り組みまし

た。奥様は毎日電話で入院中のIさんを励まし続け、リハビリ開始約8カ月後には会話ができるほどに改善。上肢や手指の動きにくさは残るものの、屋内ではほぼ自立歩行ができるまでに回復し、今年1月、退院の日を迎えることができました。

そして退院後、8月に入りIさんは念願の紙細工を再開し、作品を完成。私たち訪問看護師はその姿に感銘を受け、心が熱くなりました。

Iさんは「やっぱり家が一番。もう一度こうして好きなことができてうれしい」とうつつすらと涙を浮かべながら話しました。

（奈良・訪問看護ステーション野の花 所長 丸山節子）

★実は「家庭」には感動があふれています。その場に立ち会える訪問看護ってすごい！ 改めてそう思いました。（本部広報室 山内 敦）

今年も夏の遊びを大満喫！

山形・はやぶさ保育園の0・1・2歳児の子どもたちは、今年も戸外で水遊びや色水遊び、氷遊びなど、夏らしい遊びを楽しみました。

水遊びでは、噴水の出るプールで水の冷たさや気持ちよさを楽しんだり、友だちと水をかけ合ったりと全身で楽しむ姿が。顔に水がかかることが苦手だった子も今では喜んで水



★皆、なんてワクワクな笑顔……私

（山形・はやぶさ保育園 済生記者 齋藤里奈）

遊びを行なうようになり、子どもたちの成長をたくさん感じることができました。色水遊びや氷遊びでも、さまざまな色を混ぜながら色の変化を楽しんだり、冷たい氷を喜んで触ったりと、皆夢中になって大はしゃぎ！

猛暑に負けない笑顔で、夏ならではの遊びを楽しみ子どもたちの姿は、私たち職員の心を涼しく癒やしてくれました。

次号予告

済生 No.1133 [令和5年11月号]

済生会の不易流行論 (181) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 伊原六花

口福につぼん (74) きりたんぼ鍋 (秋田市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

も山形の夏、大好きです！ 先生方も、猛暑の中おつかれさまでした。

（メデイカル・リーフ 富谷咲希）

目指せ、山の王者？！

9月17日、長野県王滝村で開催された「セルフデイスカパリアードベンチャー（SDA）・イン・王滝2023」。103人が集結し静岡済生会総合病院からは中村哲朗作業療法士が参加しました。

この大会は、2日間にわたって自転車やマラソンのレースが行なわれます。クロスマウンテンバイクは20

キロ・42キロ・100キロ・120キロのコースがあり、中村OTは昨年引き続き、100キロに挑戦！

日本一過酷なMTBレースに向け、地元「日本平」を走り込み、コンディションを整えてきた中村OT。もしかして表彰台も夢じゃない？ と期待しましたが、レース中に熱中症になり、昨年のタイム更新とはなりません。それでも怪我もなく完走できたことは素晴らしい。ゴール直後はいつもの以上に爽やかな表情（汗と泥まみれの顔がそれはもう……）。翌日のダートマラソンにも参加すると合計タイム次第では「キング&



と、懸命にリハビリに取り組みまし

と、懸命にリハビリに取り組みまし

済生会も スキになる マスコット キャラクターも 大募集します



済生会は、社会的に弱い立場にある人々もだれ一人取り残さず、すべての人が地域社会に参加し、共に生きていく“ソーシャルインクルージョン”の根付いた社会の実現を目指しています。この使命を本会職員が意識して医療・保健・福祉サービスを提供するために、済生会のマスコットキャラクターのデザインを募集します。

募集内容 病院に限らず福祉施設でも活用できる親しみやすいオリジナリティあふれるマスコットキャラクターデザイン
応募資格 済生会職員
応募期間 2023.9/1 (金) ~ 11/30 (木) 【必着】
問い合わせ 済生会本部広報室 河内・杉山
 TEL 03-3454-3087 (ダイヤルイン)
 E-mail koho@saiseikai.or.jp

詳しい募集要項・応募方法は
 二次元バーコードから
 確認してください！



ヒルクライムレースに挑戦
 9月3日、第10回奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレースが開催されました。この大会は、山頂までの全長13.2km(最大標高差626m、平均斜度5.2%)の距離を自転車駆り上げる、なんとも過酷なレースです。
 中学生から60歳を超える総勢350人が参加する中、大分・日田病院からは河内勝宣看護師が2度目のチャレンジ！本番2カ月前から開始したトレーニングと徹底的な食事制限で、13kgの減量に成功。万全の状態です。



クイーン・オブ・王道「になれる可能性も。来年は、目指せ「山の王者」!!」
 (静岡・支部事務局 村上佳代子)
 ★熱中症になったら普通は棄権しなすよね。皆さんはマネしないように。中村さんは超人だからできたわけ。(本部広報室 河内淳史)



レース中は「こんなに苦しいことはない……」とめげそうになりながらも、これまでの努力は裏切らない！と自身を鼓舞し、前回より15分もタイムを縮め自己ベストでゴール！「継続は力なり」と輝かしい笑顔を見せてくれました。
 当日は、当院DMATも救護班として参加。選手の安全なゴールを見守りました。
 (大分・日田病院 済生記者 石井 玲)
 ★15分もタイムを縮めたとのことすごいです！「継続は力なり」本当に体现されていますね。
 (本部広報室 杉山菜央)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。
 以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。
 戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。
 総裁 秋篠宮皇嗣殿下
 会長 潮谷義子
 理事長 炭谷 茂
 本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
 病院 81
 診療所 20
 介護医療院 2
 介護老人保健施設 28
 救護施設 1
 児童福祉施設 25
 老人福祉施設 120
 障害者福祉施設 9
 看護師養成施設 7
 訪問看護ステーション 64
 地域包括支援センター 31
 地域生活定着支援センター 5
 その他 10
 合計 403 (数字は令和4年度)
 さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。
 職員数は全国で約6万4000人。

済生

[令和5年10月号]
 THE NEWSLETTER of
 Social Welfare Organization
 Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年10月10日発行
 通巻第1132号 (第99巻第10号)
 編集兼 炭谷 茂
 発行人
 発行所 社会福祉法人財団法人済生会
 〒108-0073
 東京都港区三田1-4-28
 三田国際ビルヂング21階
 TEL: 03-3454-3311 (代)
 FAX: 03-3454-5576
 印刷所 株式会社白橋
 東京都中央区八丁堀4-4-1
 ©社会福祉法人財団法人済生会



グレーゾーンも含む
発達が気になるお子さま向け

北海道 小樽市 保育園留学



北海道 小樽市 発達支援事業所 きっずてらす

発達が気になるお子様を対象に、生きる力や自信を養いながら、
家族で1~2週間滞在できるワーケーションプログラムが体験できます。
子供には心身ともにのびのび育つ環境。ご家族にはコワーキングスペース。
ウェルネスタウンとしても注目される小樽市で、暮らし体験をしてみませんか。

対象年齢

1歳児～5歳児

※グレーゾーンも含む発達が気になる
お子さんが対象

留学期間

1週間 or 2週間

※2023年10月～2024年3月

「発達支援事業所 きっずてらす」での保育園留学®のポイント



01

充実した専門家による
ハイレベルな支援

作業療法士、言語聴覚士、
公認心理師などプロが在籍



02

生きる力や自信を養う
個別支援と集団活動

一人ひとりの個性に合わせた
プログラム



03

ダイナミックな
感覚統合体験

ボルダリングや
ボールプールなど

在園児ご家族の声

毎回、きっずてらすに
行くたびに成長を感じます。

自信の無いことはしつらなかつたり、
声掛けだけでも嫌がってパニックに
なる事が多いので、自分から行動でき
てて凄いなあと感じています。
先生達とお話するのも、とても楽しい
ようで保育園から帰ると「きっずてらす
楽しかったー！」と家でも良く伝えて
くれています！

ウェルネスタウン北海道小樽市

子どもから高齢者まで、誰もが安心して
住み続けられるまちづくりを目指しています。

新千歳空港から小樽へは

🚆 電車で約 80分

🚶 徒歩 8分

新千歳空港

JR 函館本線
「小樽港駅」

発達支援事業所
きっずてらす

詳しくはWEBサイトを
ご確認ください

お問い合わせ先

保育園留学 運営事務局 運営会社：株式会社キッチハイク
support@hoikuen-ryugaku.zendesk.com

留学に関するご不安やご不明点のご相談など、
「保育園留学コンシェルジュ」がサポートいたします。

